

大阪市指定保存樹を対象とした 樹木の景観的価値の評価の試み

緑地環境計画工学研究室
武田 行剛

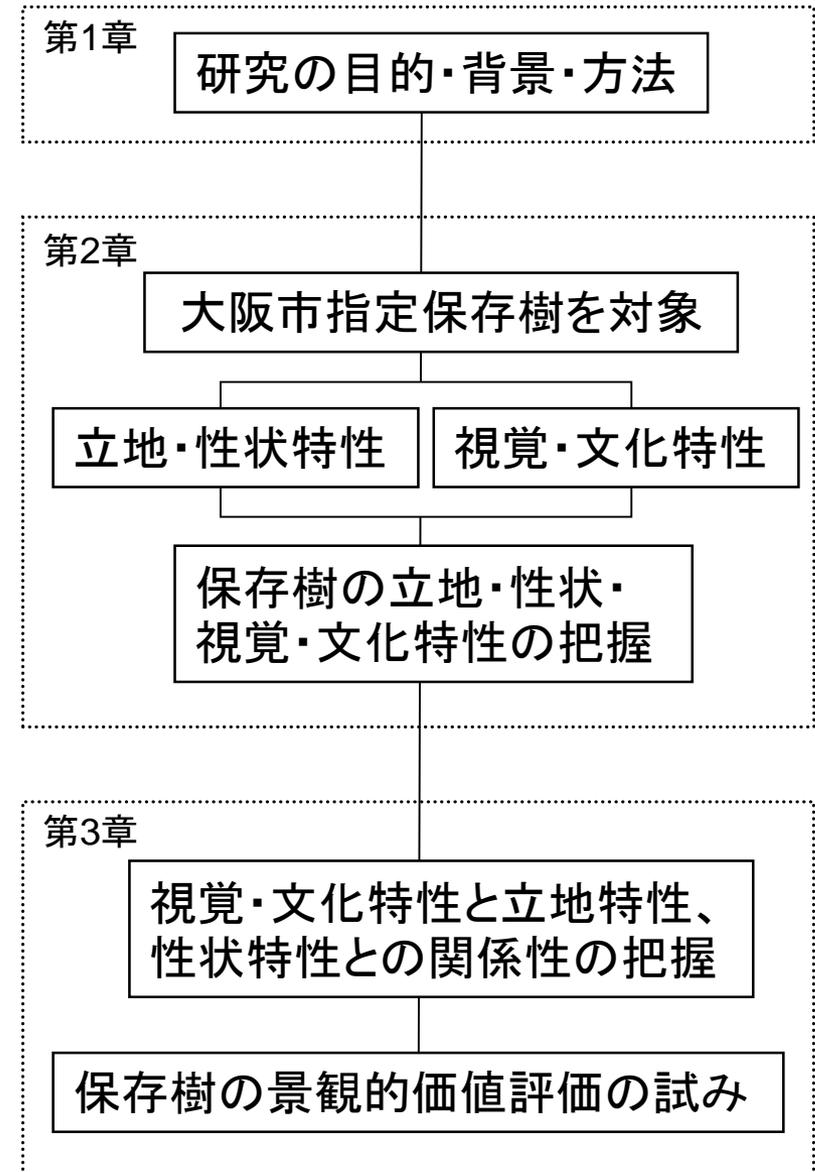
論文の構成

研究の背景

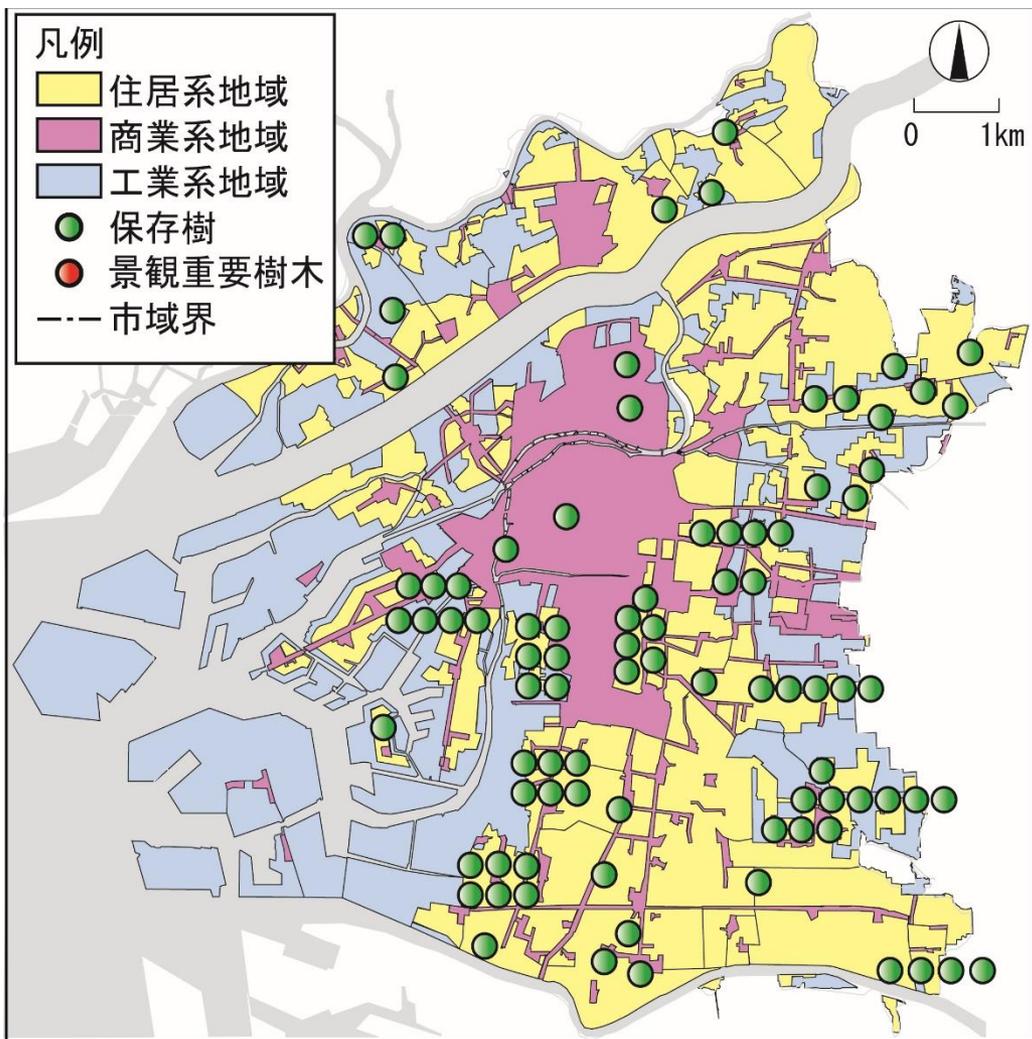
景観法における景観重要樹木の指定条項が創設されたことで、樹木の景観的価値が認められるようになったが、その評価手法は定まっていない。

研究の目的

大阪市指定保存樹を対象に、樹木の景観的価値を評価する指標を探り、その指標を用いて景観重要樹木を選定するための評価を試みた。



第2章 調査対象及び調査方法の説明



立地特性

- ・指定年
- ・樹種
- ・所在地
- ・土地所有
- ・周辺環境

性状特性

- ・樹高
- ・幹周り
- ・枝張り
- ・活力度

調査方法

参考資料

大阪市保存樹台帳

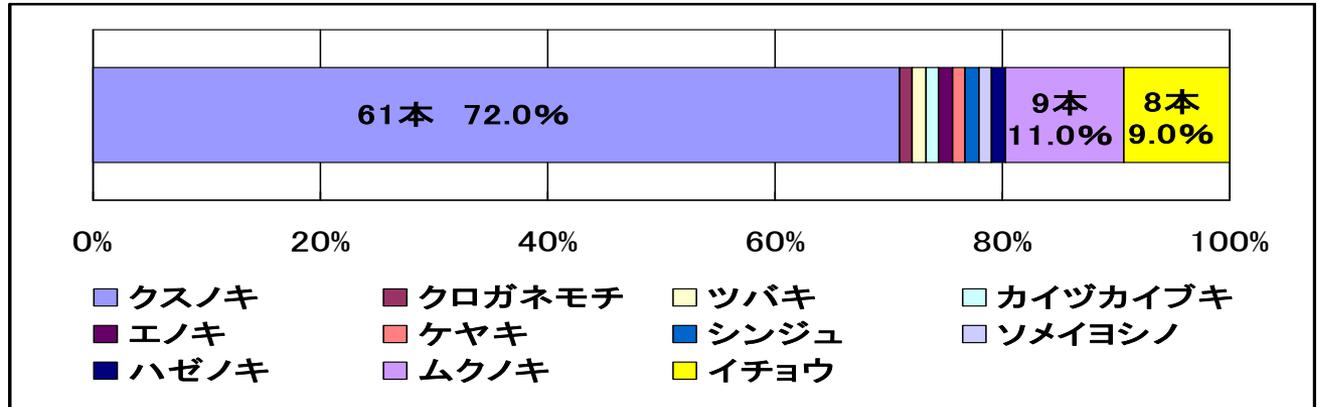
1/25000 大阪市都市計画図(大阪市
計画調整局)

現地調査 2006年7月～12月

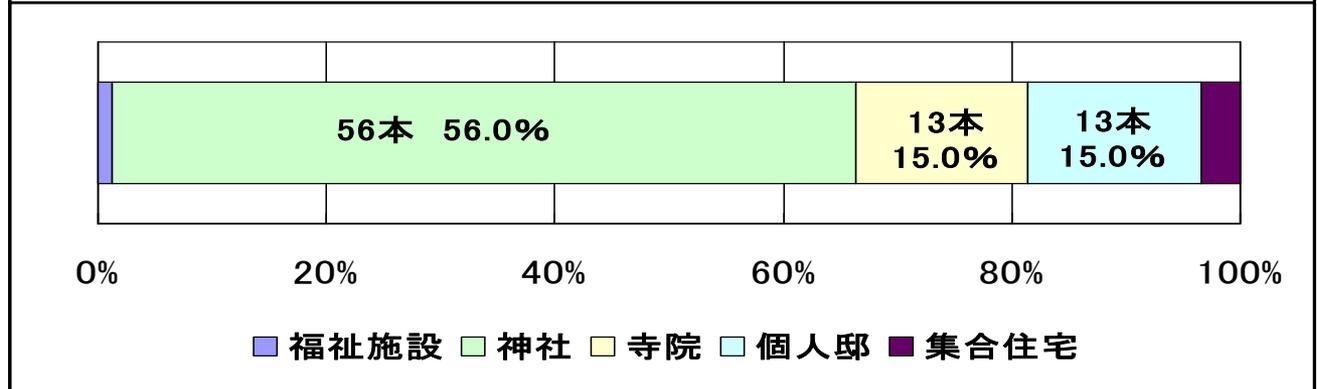
科学技術庁資源調査会(1973)
樹木活力指標の評価基準

立地特性調査結果

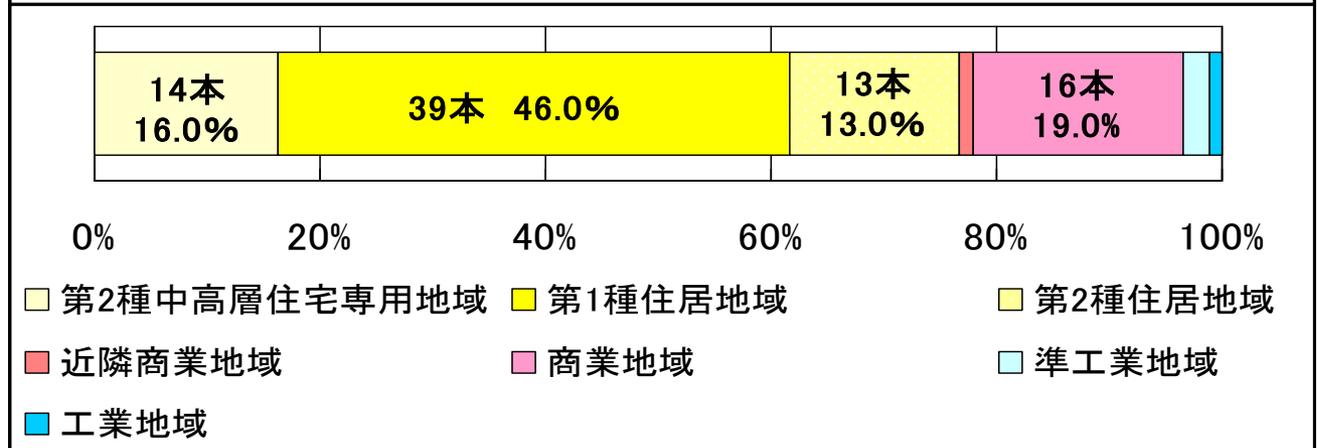
樹種



土地所有

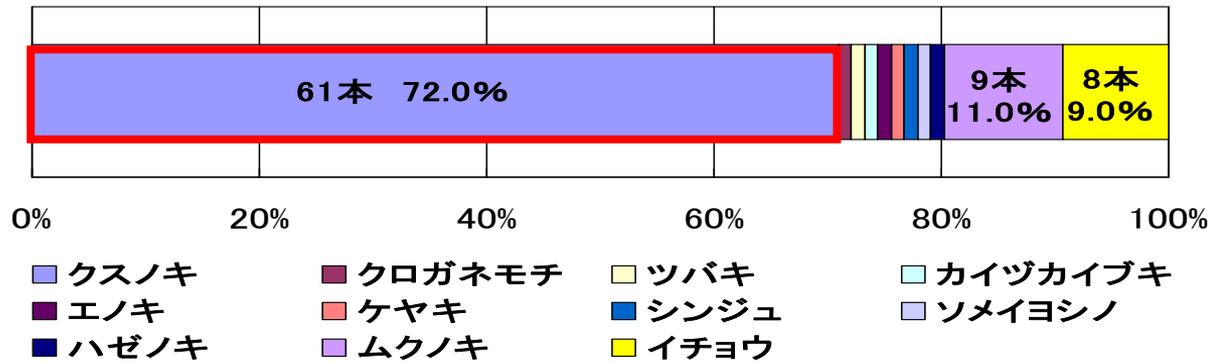


周辺環境

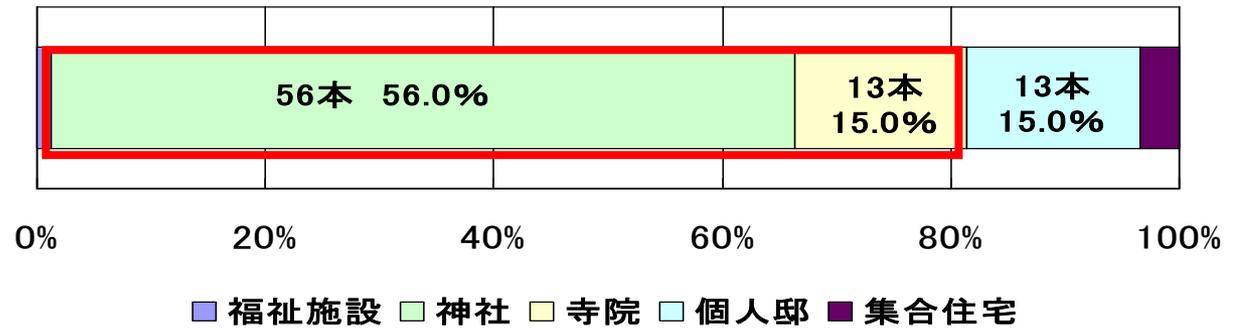


立地特性調査結果

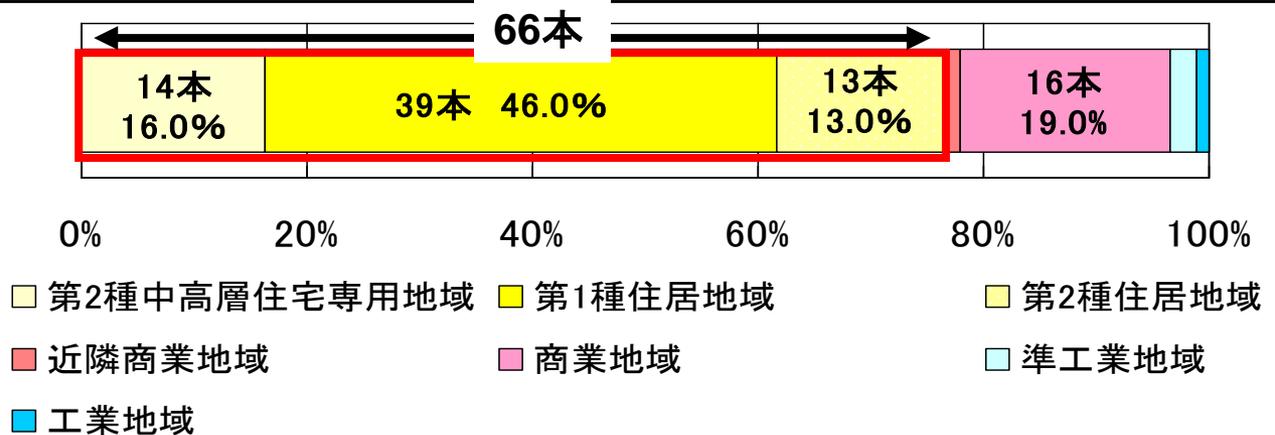
樹種



土地所有

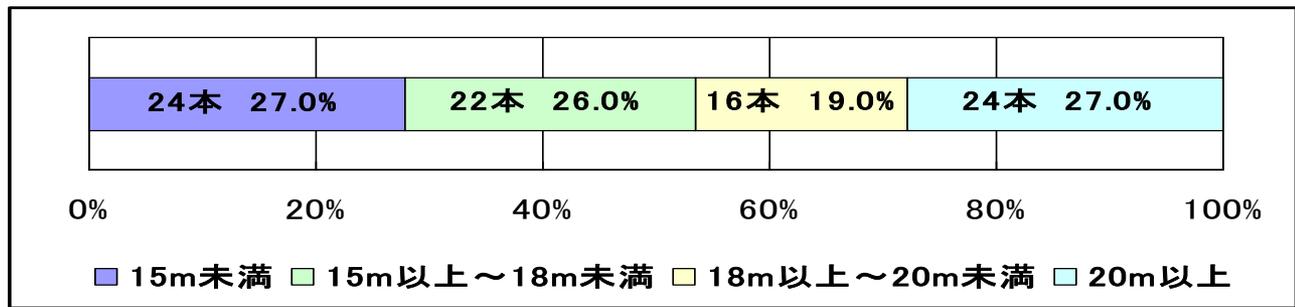


周辺環境

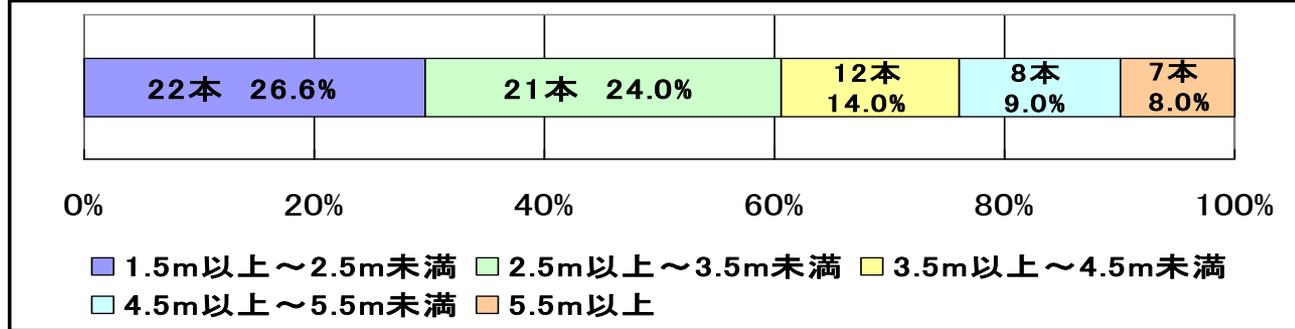


性状特性調査結果

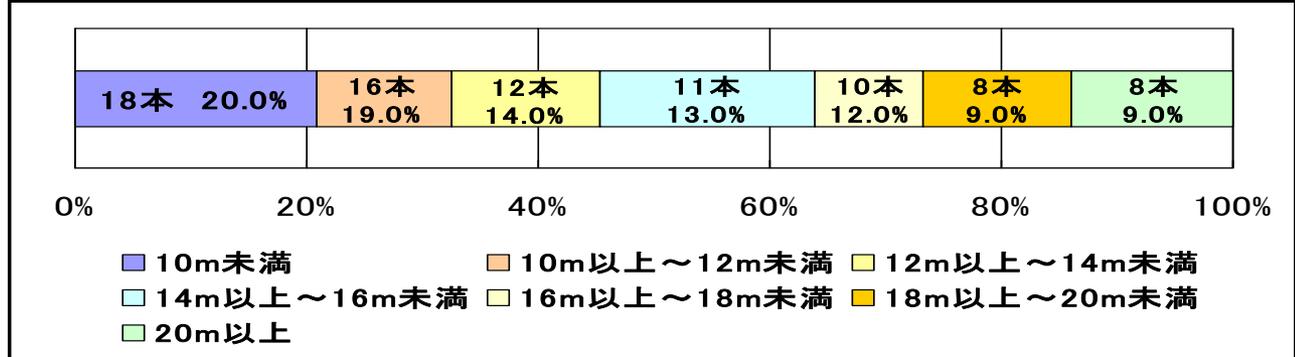
樹高 (現在)



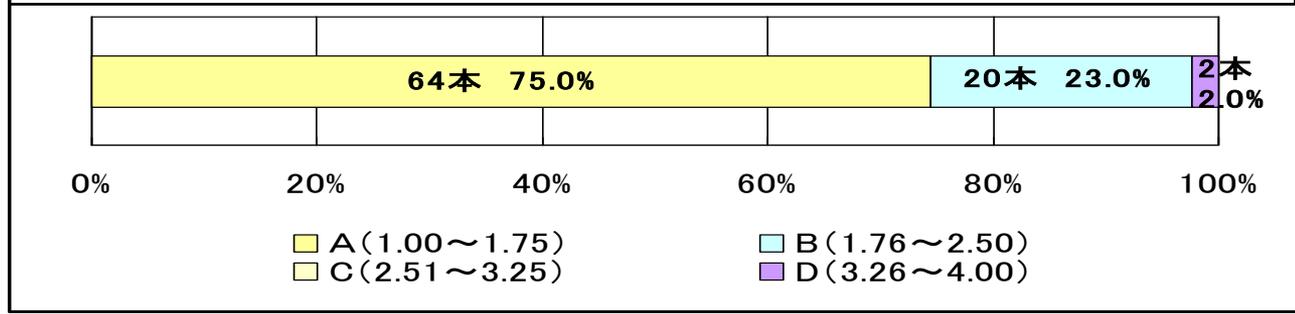
幹周り (現在)



枝張り

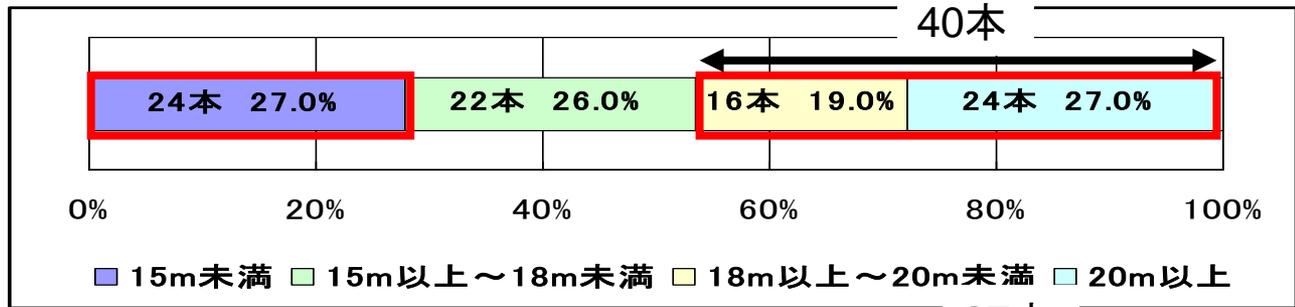


活力度

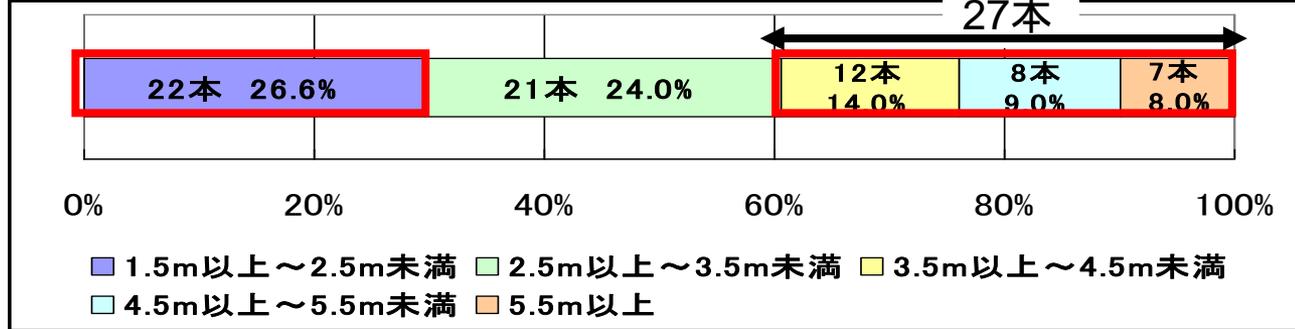


性状特性調査結果

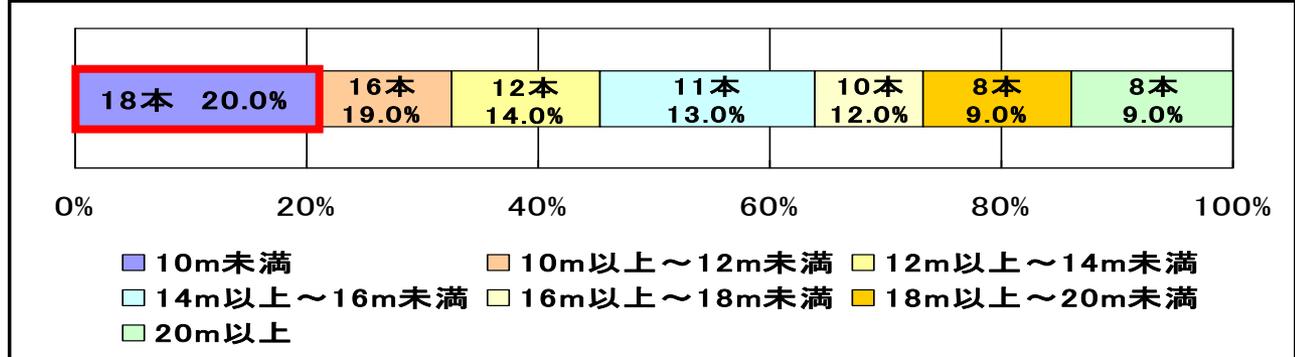
樹高
(現在)



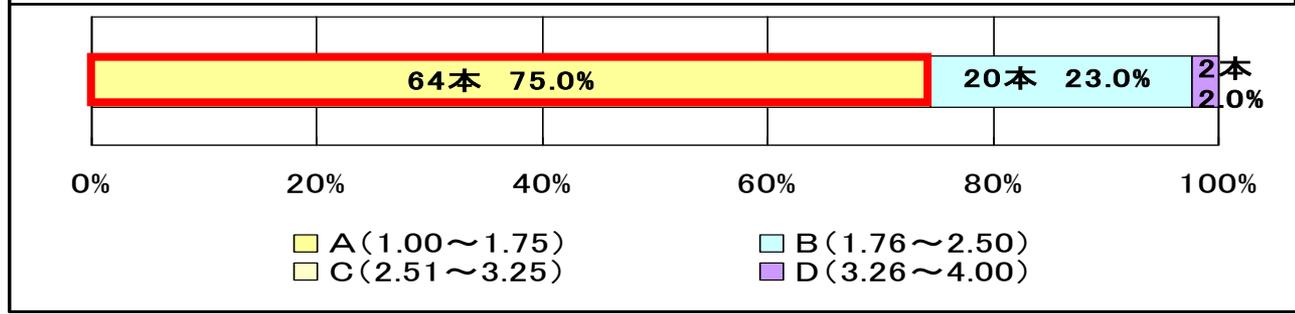
幹周り
(現在)



枝張り



活力度



視覚・文化特性の調査項目の説明

・視覚特性(現地調査)

最大可視距離

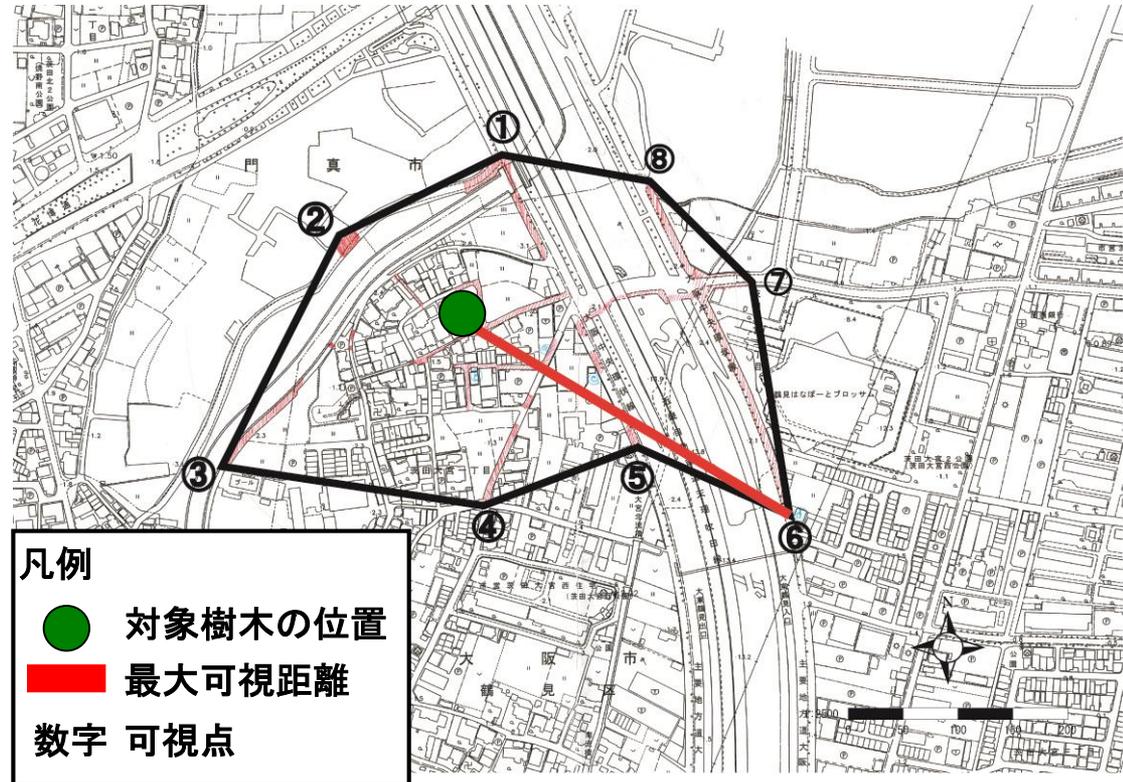
最大可視箇所数

目立ち度

樹容特性

・文化特性(ヒアリング調査及び説明板)

故事来歴の有無



視覚・文化特性の調査項目の説明

・視覚特性(現地調査)

最大可視距離

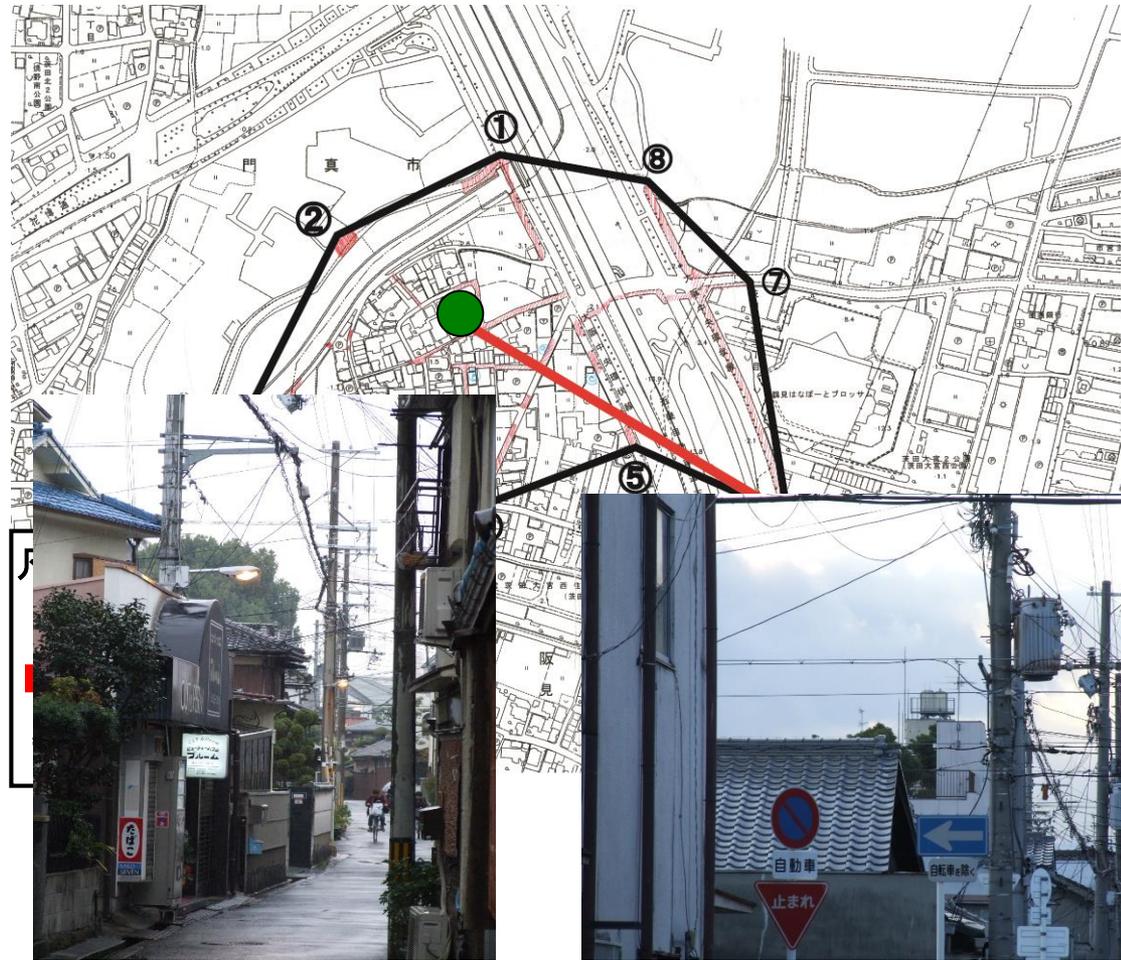
最大可視箇所数

目立ち度

樹容特性



1/3以上見える



頭以上～1/3未満見える

頭のみ

視覚・文化特性の調査項目の説明

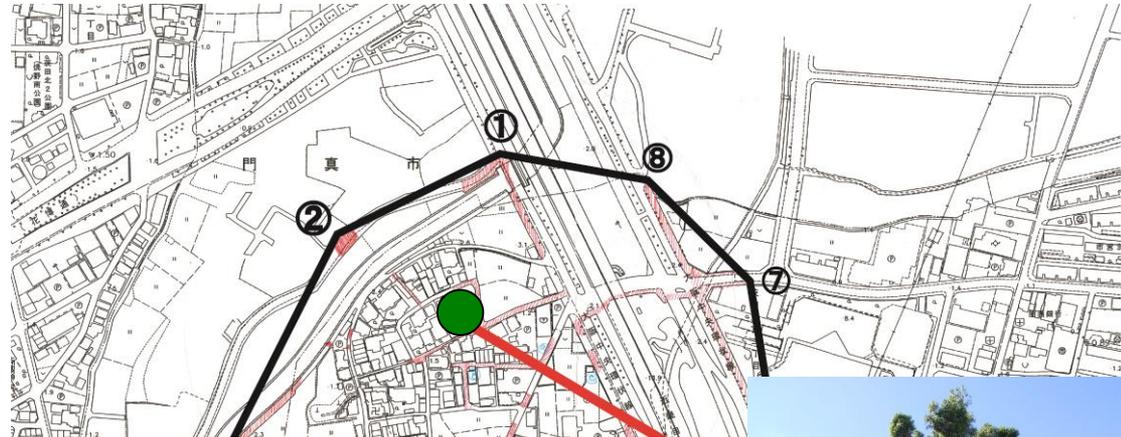
・視覚特性(現地調査)

最大可視距離

最大可視箇所数

目立ち度

.....



特に美しい



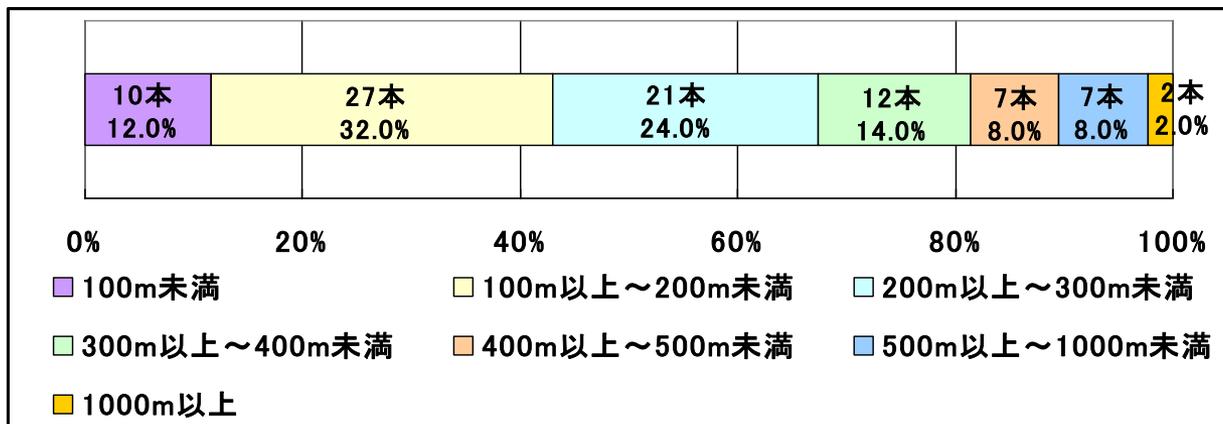
美しい



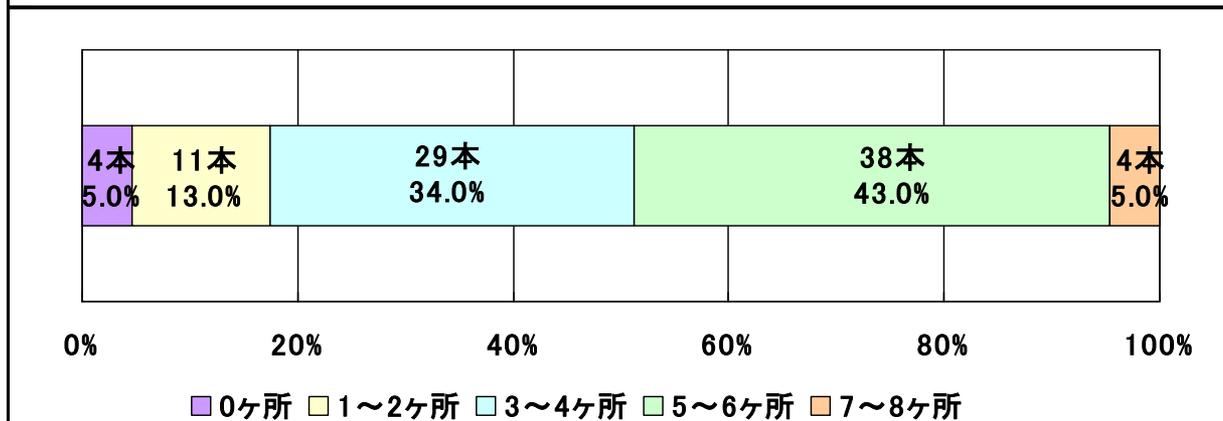
美しくない

視覚・文化特性調査結果(1)

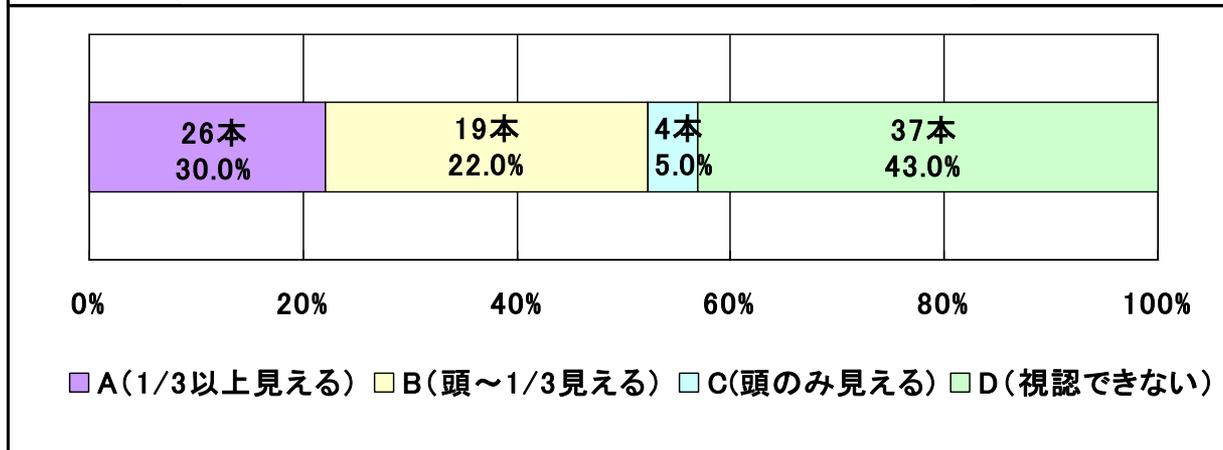
最大可視距離



最大可視箇所数

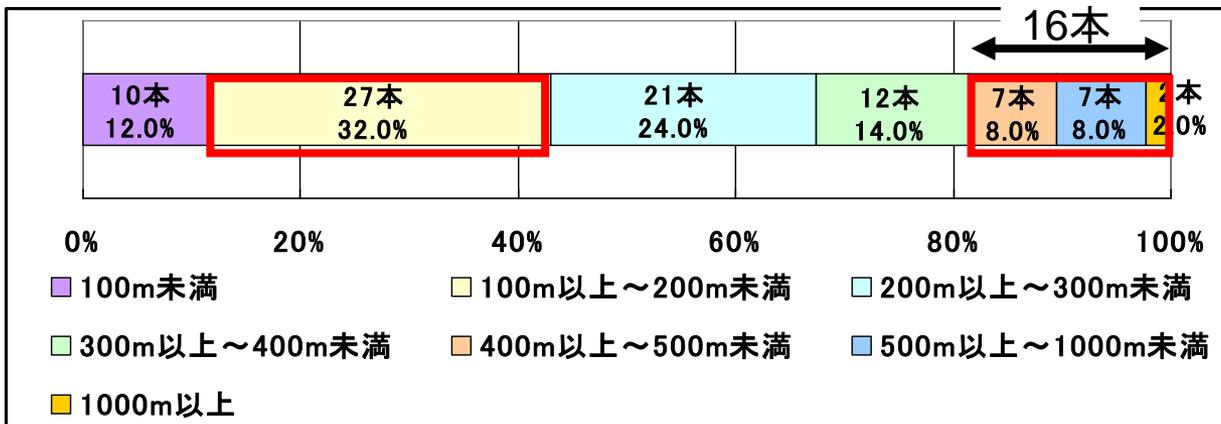


目立ち度

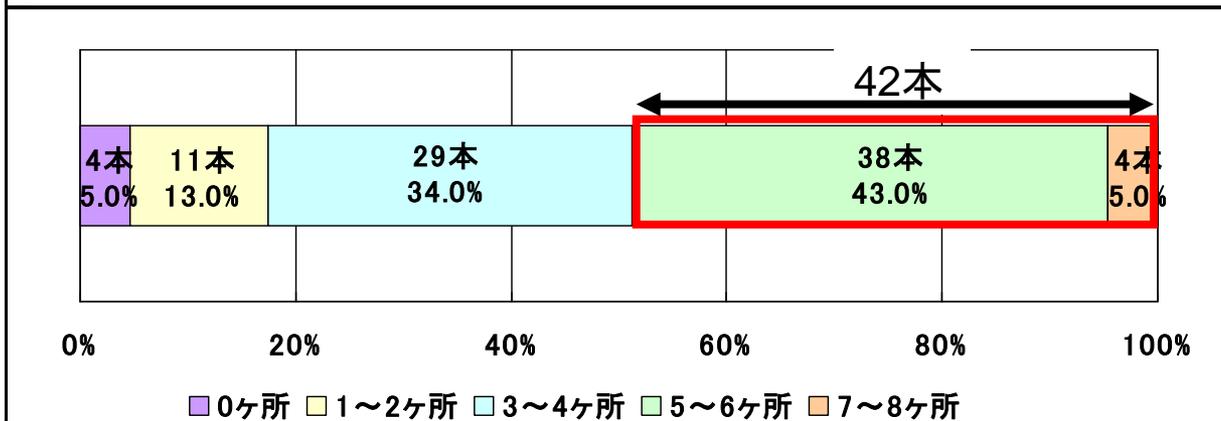


視覚・文化特性調査結果(1)

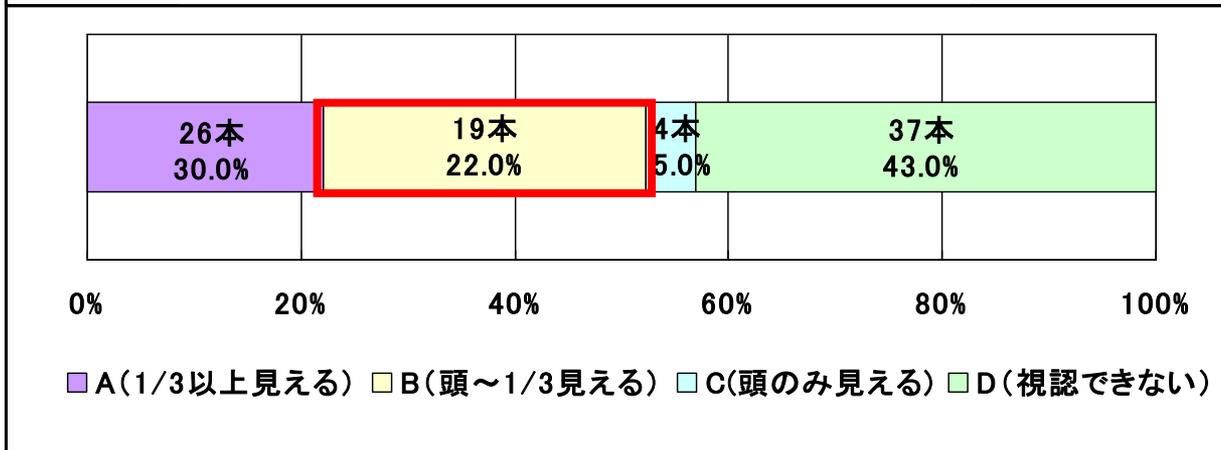
最大可視距離



最大可視箇所数

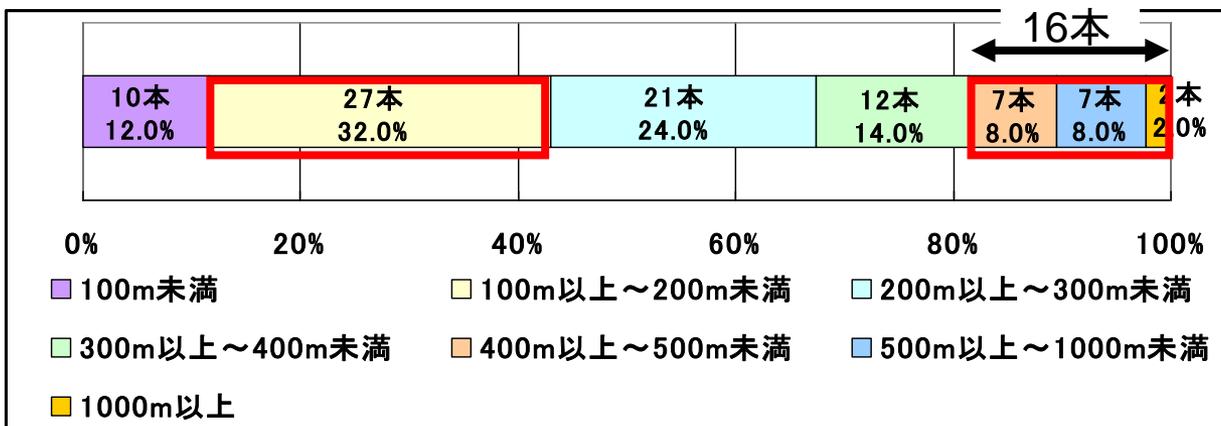


目立ち度

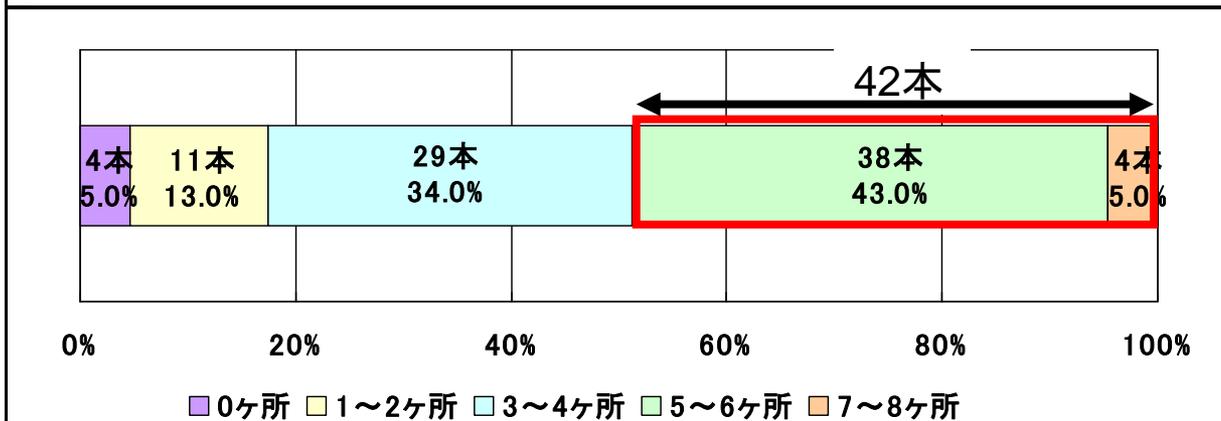


視覚・文化特性調査結果(1)

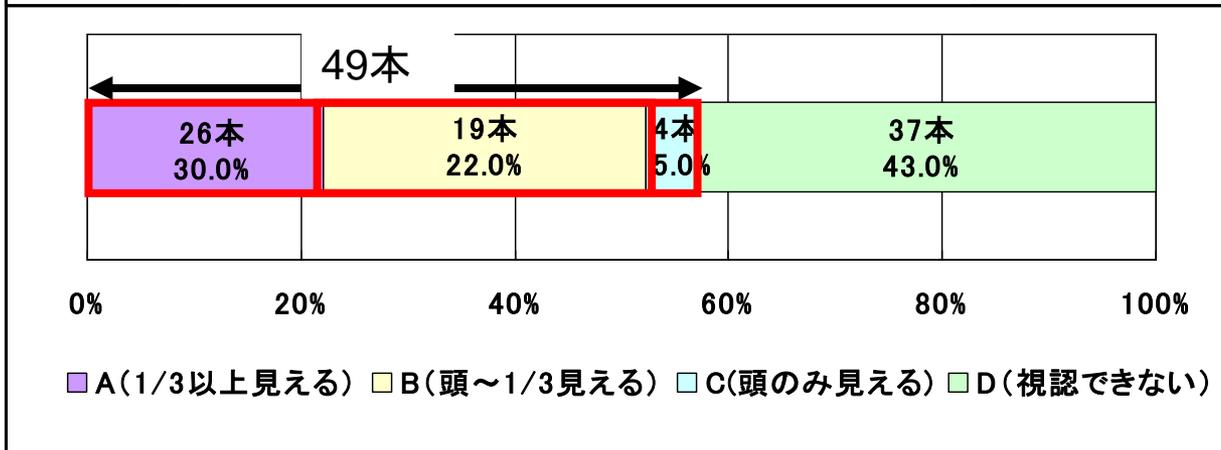
最大可視距離



最大可視箇所数

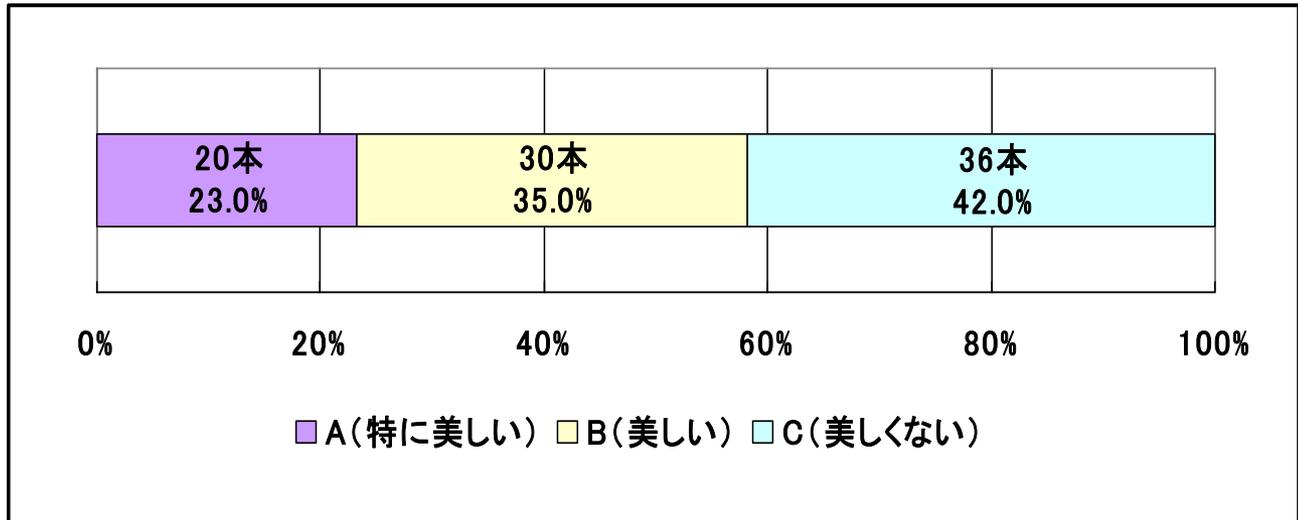


目立ち度

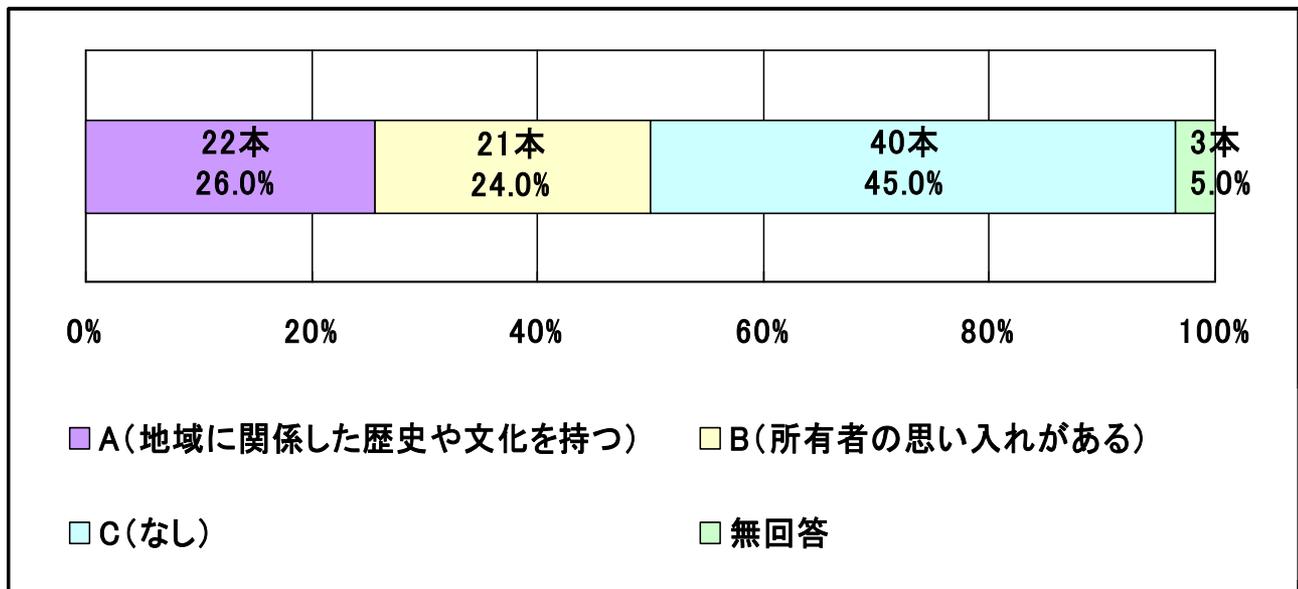


視覚・文化特性調査結果(2)

樹容特性

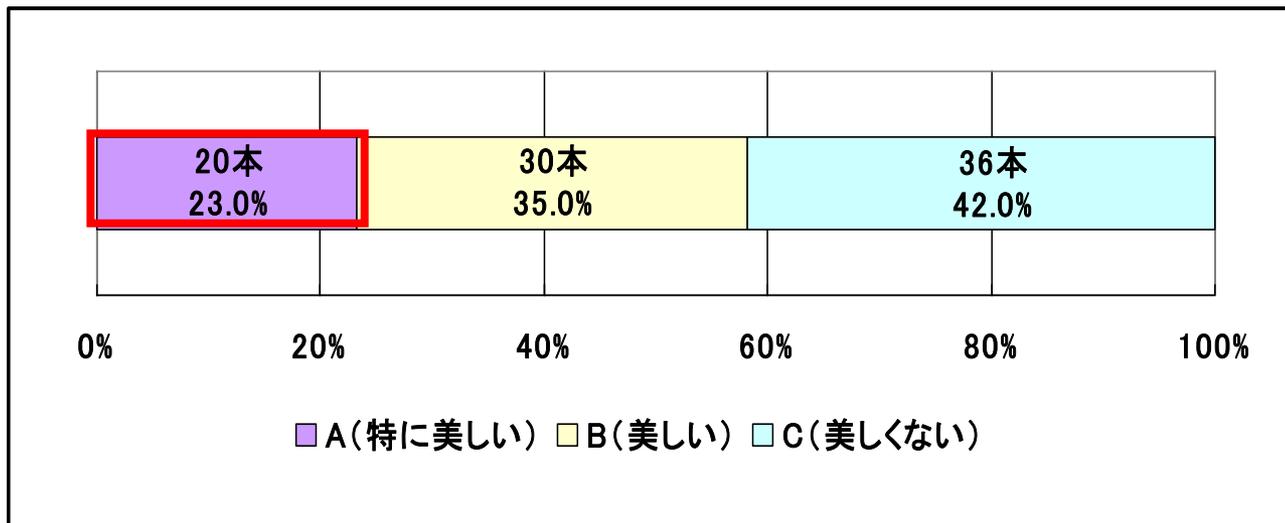


故事来歴の有無

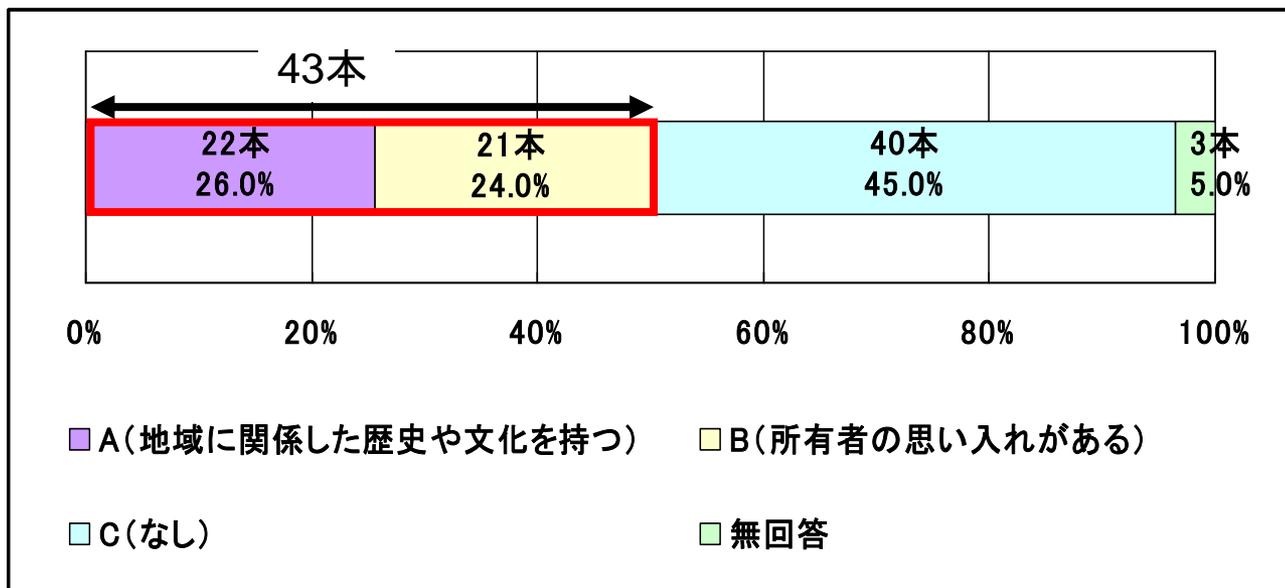


視覚・文化特性調査結果(2)

樹容特性



故事来歴の有無



第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

		立地・性状特性						
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい
	最大可視箇所数	×	—	○住居系で増える	×	×	×	×
	目立ち度	×	—	○Aは住居系・工業系地域に存在し、商業系地域には存在しない	○Aは樹高18m以上が多くを占め、樹高15m未満では低くなる	×	○14m以上で高くなる	○B以上が望ましい
	樹容特性	×	○美しい樹木は神社・寺院に多い	○第1種住居地域で担保されやすい	○A、Bは18m以上の樹木に多くみられる	×	○Aは14m以上が大半を占める	○Aが望ましい
	故事来歴の有無	×	○神社・集合住宅に「A」が多く、寺院・個人邸に「B」が多い	○第1種住居と商業地域に多い	○18m以上の樹木に多い	○Aは3.5mの樹木に多く存在する。	×	×

○ 影響有り × 影響無し — 未集計

第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

		立地・性状特性						
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい
	最大可視箇所数	×	—	○住居系で増える	×	×	×	×
	目立ち度	×	—	○Aは住居系・工業系地域に存在し、商業系地域には存在しない	○Aは樹高18m以上が多くを占め、樹高15m未満では低くなる	×	○14m以上で高くなる	○B以上が望ましい
	樹容特性	×	○美しい樹木は神社・寺院に多い	○第1種住居地域で担保されやすい	○A、Bは18m以上の樹木に多くみられる	×	○Aは14m以上が大半を占める	○Aが望ましい
	故事来歴の有無	×	○神社・集合住宅に「A」が多く、寺院・個人邸に「B」が多い	○第1種住居と商業地域に多い	○18m以上の樹木に多い	○Aは3.5mの樹木に多く存在する。	×	×

○ 影響有り × 影響無し — 未集計

第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

		立地・性状特性																																																						
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度																																																
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい																																																
	最大可視箇所数	×	—	○住居系で増える	×	×	×	×																																																
	目立ち度	<p>最大可視距離－樹高クロス集計結果</p> <table border="1"> <caption>最大可視距離－樹高クロス集計結果</caption> <thead> <tr> <th>最大可視距離</th> <th>15m未満</th> <th>15m以上～18m未満</th> <th>18m以上～20m未満</th> <th>20m以上</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>100未満</td> <td>5</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>100m以上～200m未満</td> <td>13</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>200m以上～300m未満</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>10</td> <td>21</td> </tr> <tr> <td>300m以上～400m未満</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>6</td> <td>12</td> </tr> <tr> <td>400m以上～500m未満</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>500m以上～1000m未満</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>7</td> </tr> <tr> <td>1000m以上</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> </tbody> </table>						最大可視距離	15m未満	15m以上～18m未満	18m以上～20m未満	20m以上	合計	100未満	5	1	1	0	7	100m以上～200m未満	13	2	1	1	17	200m以上～300m未満	3	4	4	10	21	300m以上～400m未満	2	1	3	6	12	400m以上～500m未満	0	1	1	5	7	500m以上～1000m未満	1	1	1	4	7	1000m以上	0	0	1	1	2	○B以上が望ましい
	最大可視距離	15m未満	15m以上～18m未満	18m以上～20m未満	20m以上	合計																																																		
100未満	5	1	1	0	7																																																			
100m以上～200m未満	13	2	1	1	17																																																			
200m以上～300m未満	3	4	4	10	21																																																			
300m以上～400m未満	2	1	3	6	12																																																			
400m以上～500m未満	0	1	1	5	7																																																			
500m以上～1000m未満	1	1	1	4	7																																																			
1000m以上	0	0	1	1	2																																																			
樹容特性	Aが望ましい																																																							
故事来歴の有無	×																																																							
		未集計																																																						

第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

		立地・性状特性																																																							
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度																																																	
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい																																																	
	最大可視箇所数	×	—	○住居系で増える	×	×																																																			
	目立ち度	最大可視距離－樹高クロス集計結果						58本中 38本																																																	
	樹容特性	<table border="1"> <tr> <td>100未満</td> <td>5本</td> <td>14本</td> <td>10本</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>100m以上～200m未満</td> <td>13本</td> <td>6本</td> <td></td> <td></td> <td>27本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>200m以上～300m未満</td> <td>3本</td> <td>7本</td> <td></td> <td></td> <td>21本</td> <td></td> </tr> <tr> <td>300m以上～400m未満</td> <td></td> <td>6本</td> <td>3本</td> <td>12本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>400m以上～500m未満</td> <td></td> <td>1本</td> <td>3本</td> <td>7本</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>500m以上～1000m未満</td> <td>3本</td> <td>2本</td> <td>7本</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>1000m以上</td> <td></td> <td>2本</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>						100未満	5本	14本	10本				100m以上～200m未満	13本	6本			27本		200m以上～300m未満	3本	7本			21本		300m以上～400m未満		6本	3本	12本			400m以上～500m未満		1本	3本	7本			500m以上～1000m未満	3本	2本	7本				1000m以上		2本					が望
	100未満	5本	14本	10本																																																					
100m以上～200m未満	13本	6本			27本																																																				
200m以上～300m未満	3本	7本			21本																																																				
300m以上～400m未満		6本	3本	12本																																																					
400m以上～500m未満		1本	3本	7本																																																					
500m以上～1000m未満	3本	2本	7本																																																						
1000m以上		2本																																																							
故事来歴の有無							28本中 20本	×																																																	
								未集計																																																	

■ 15m未満 ■ 15m以上～18m未満
■ 18m以上～20m未満 ■ 20m以上

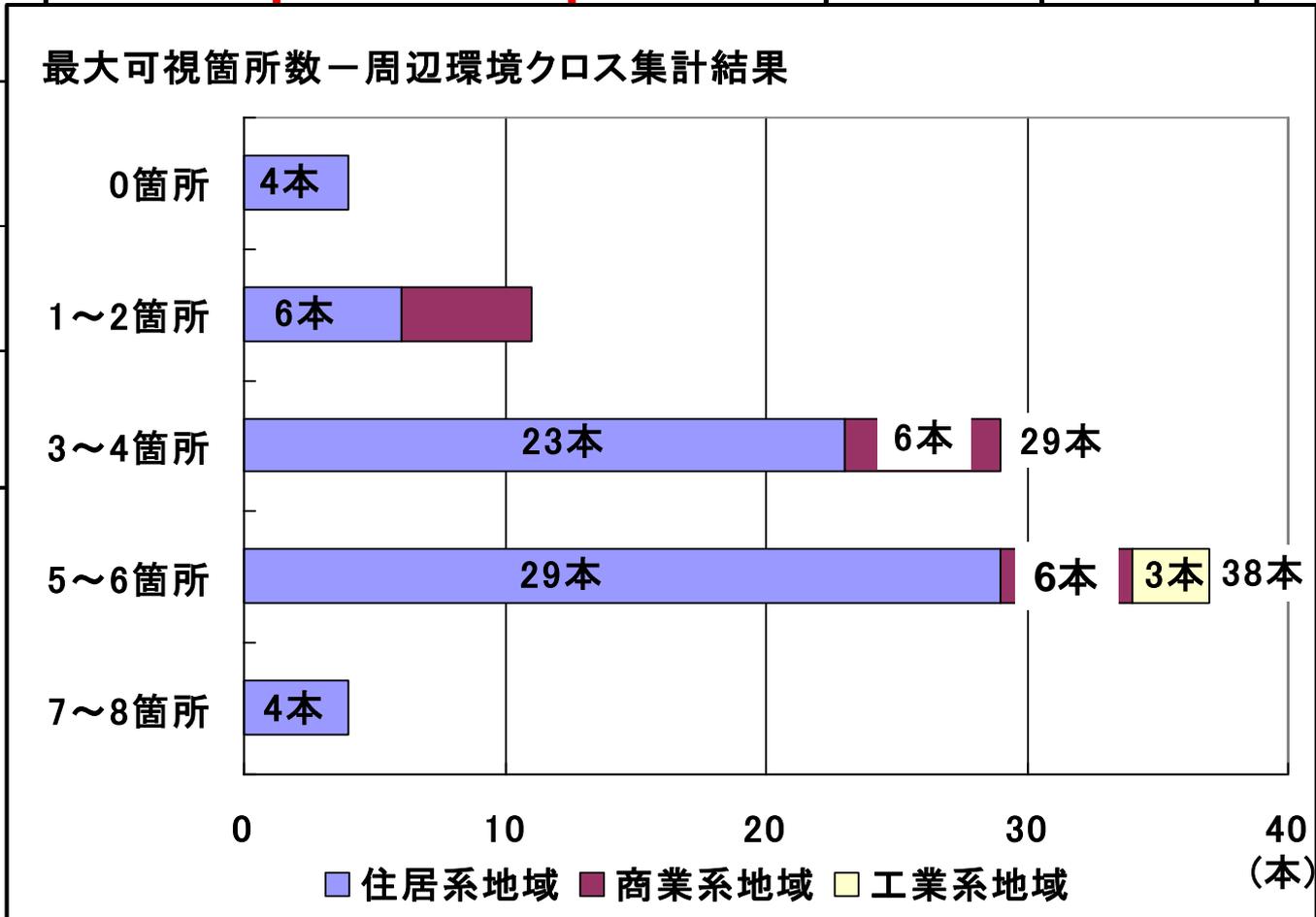
第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

		立地・性状特性						
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい
	最大可視箇所数	×	—	○住居系で増える	×	×	×	×
	目立ち度	×	—	○Aは住居系・工業系地域に存在し、商業系地域には存在しない	○Aは樹高18m以上が多くを占め、樹高15m未満では低くなる	×	○14m以上で高くなる	○B以上が望ましい
	樹容特性	×	○美しい樹木は神社・寺院に多い	○第1種住居地域で担保されやすい	○A、Bは18m以上の樹木に多くみられる	×	○Aは14m以上が大半を占める	○Aが望ましい
	故事来歴の有無	×	○神社・集合住宅に「A」が多く、寺院・個人邸に「B」が多い	○第1種住居と商業地域に多い	○18m以上の樹木に多い	○Aは3.5mの樹木に多く存在する。	×	×

○ 影響有り × 影響無し — 未集計

第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

		立地・性状特性						
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい
	最大可視箇所数	×						×
	目立ち度	×						以上が望ましい
	樹容特性	×						が望ましい
	故事来歴の有無	×						×



×

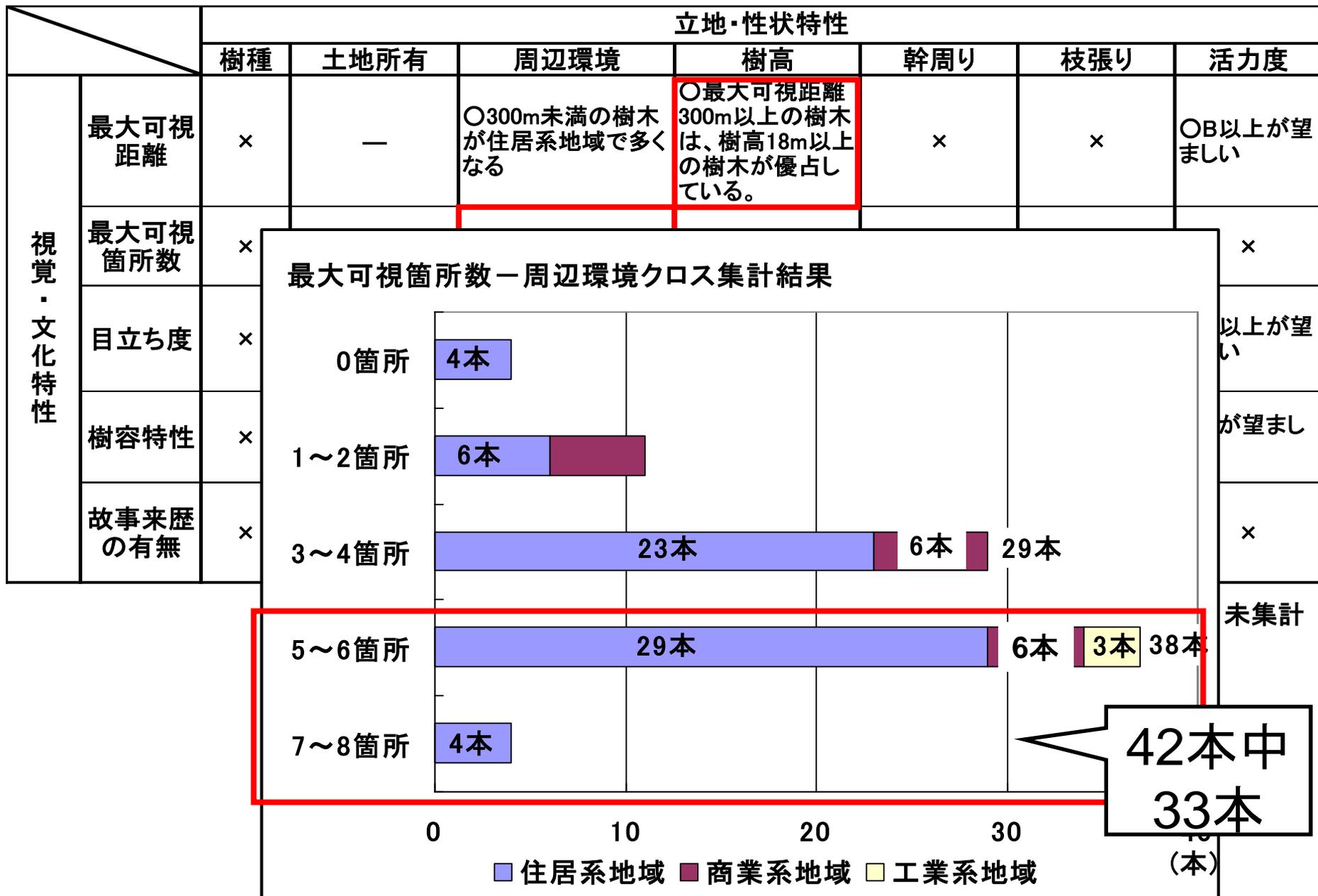
以上が望ましい

が望ましい

×

未集計

第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握



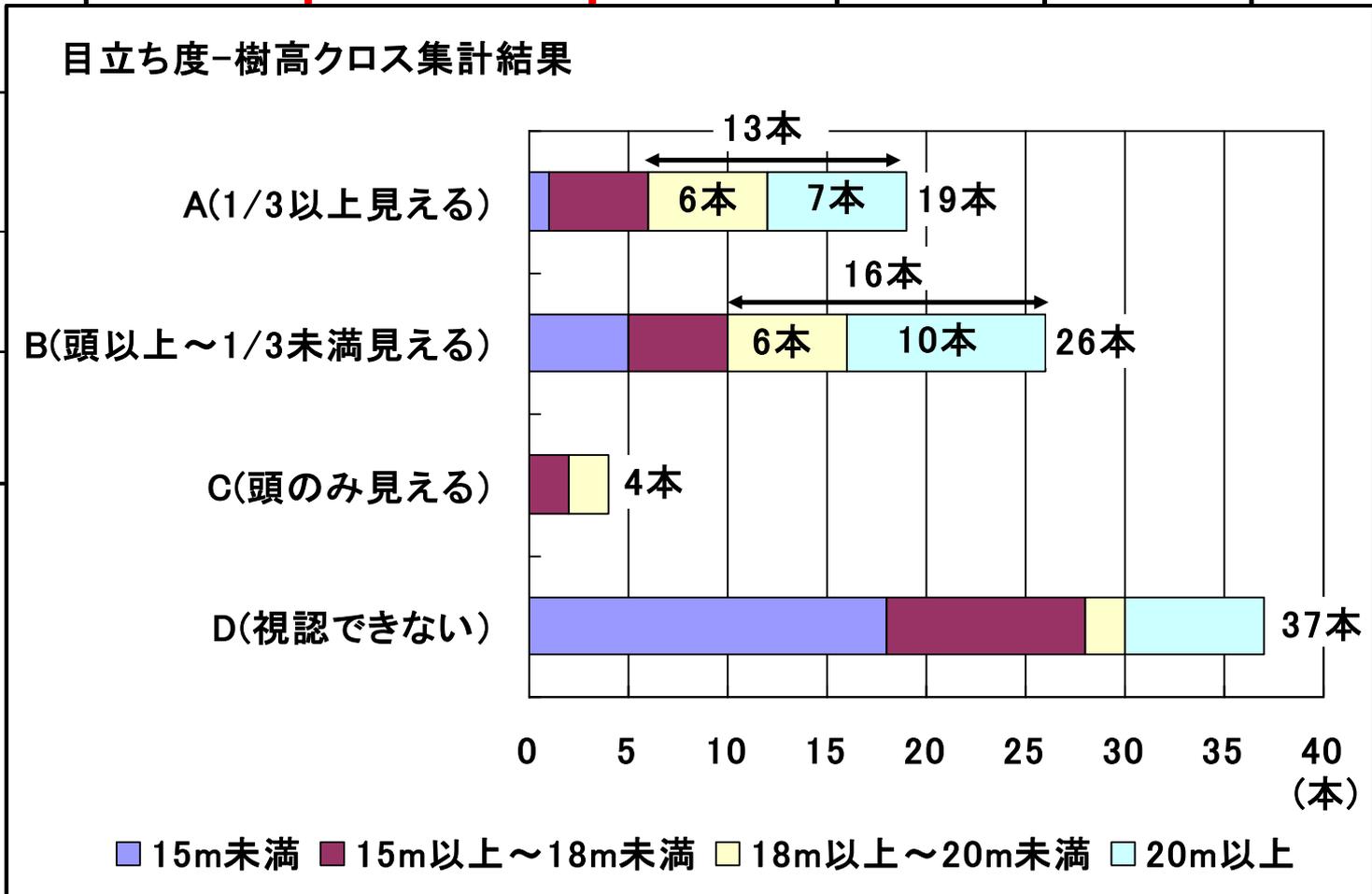
第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

		立地・性状特性						
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい
	最大可視箇所数	×	—	○住居系で増える	×	×	×	×
	目立ち度	×	—	○Aは住居系・工業系地域に存在し、商業系地域には存在しない	○Aは樹高18m以上が多くを占め、樹高15m未満では低くなる	×	○14m以上で高くなる	○B以上が望ましい
	樹容特性	×	○美しい樹木は神社・寺院に多い	○第1種住居地域で担保されやすい	○A、Bは18m以上の樹木に多くみられる	×	○Aは14m以上が大半を占める	○Aが望ましい
	故事来歴の有無	×	○神社・集合住宅に「A」が多く、寺院・個人邸に「B」が多い	○第1種住居と商業地域に多い	○18m以上の樹木に多い	○Aは3.5mの樹木に多く存在する。	×	×

○ 影響有り × 影響無し — 未集計

第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

		立地・性状特性						
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい
	最大可視箇所数							
	目立ち度							
	樹容特性							
	故事来歴の有無							



が望
まし
集計

第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

		立地・性状特性																																				
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度																														
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい																														
	最大可視箇所数	<div style="border: 2px solid red; padding: 10px;"> <p style="text-align: center;">目立ち度-樹高クロス集計結果</p> <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <caption>目立ち度-樹高クロス集計結果 (目録)</caption> <thead> <tr> <th>目立ち度</th> <th>15m未満</th> <th>15m以上～18m未満</th> <th>18m以上～20m未満</th> <th>20m以上</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>A(1/3以上見える)</td> <td>1</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>7</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>B(頭以上～1/3未満見える)</td> <td>5</td> <td>5</td> <td>6</td> <td>10</td> <td>26</td> </tr> <tr> <td>C(頭のみ見える)</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>D(視認できない)</td> <td>18</td> <td>10</td> <td>2</td> <td>7</td> <td>37</td> </tr> </tbody> </table> </div>							目立ち度	15m未満	15m以上～18m未満	18m以上～20m未満	20m以上	合計	A(1/3以上見える)	1	5	6	7	19	B(頭以上～1/3未満見える)	5	5	6	10	26	C(頭のみ見える)	0	2	2	0	4	D(視認できない)	18	10	2	7	37
	目立ち度								15m未満	15m以上～18m未満	18m以上～20m未満	20m以上	合計																									
	A(1/3以上見える)								1	5	6	7	19																									
	B(頭以上～1/3未満見える)								5	5	6	10	26																									
C(頭のみ見える)	0								2	2	0	4																										
D(視認できない)	18	10	2	7	37																																	
目立ち度																																						
樹容特性																																						
故事来歴の有無																																						

第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

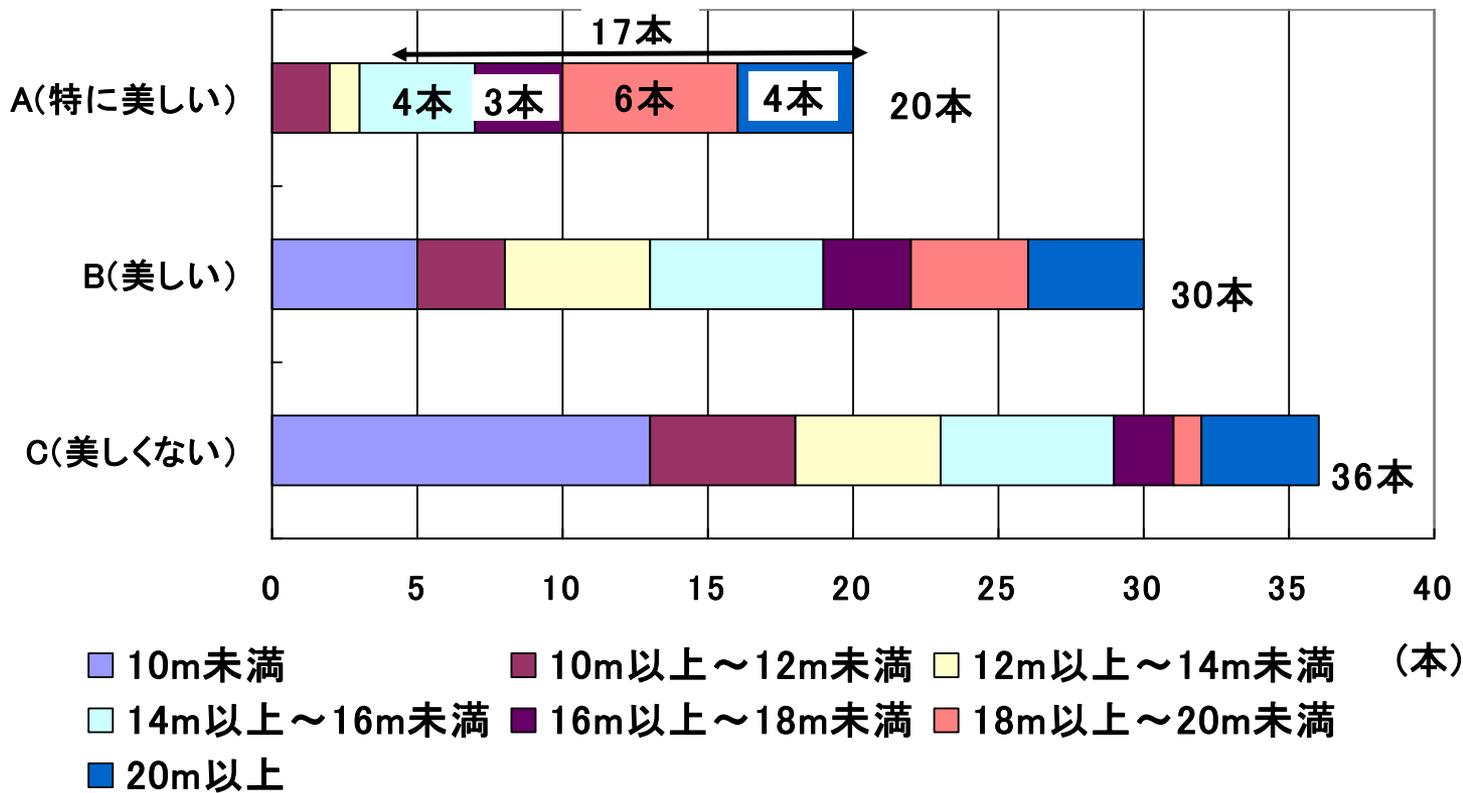
		立地・性状特性						
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい
	最大可視箇所数	×	—	○住居系で増える	×	×	×	×
	目立ち度	×	—	○Aは住居系・工業系地域に存在し、商業系地域には存在しない	○Aは樹高18m以上が多くを占め、樹高15m未満では低くなる	×	○14m以上で高くなる	○B以上が望ましい
	樹容特性	×	○美しい樹木は神社・寺院に多い	○第1種住居地域で担保されやすい	○A、Bは18m以上の樹木に多くみられる	×	○Aは14m以上が大半を占める	○Aが望ましい
	故事来歴の有無	×	○神社・集合住宅に「A」が多く、寺院・個人邸に「B」が多い	○第1種住居と商業地域に多い	○18m以上の樹木に多い	○Aは3.5mの樹木に多く存在する。	×	×

○ 影響有り × 影響無し — 未集計

第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

		立地・性状特性						
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい
	最大可視箇所数	×	—	○住居系で増える	×	×	×	×
	目立ち度							以上が望ましい
	樹容特性							望ましい
	故事来歴の有無							×

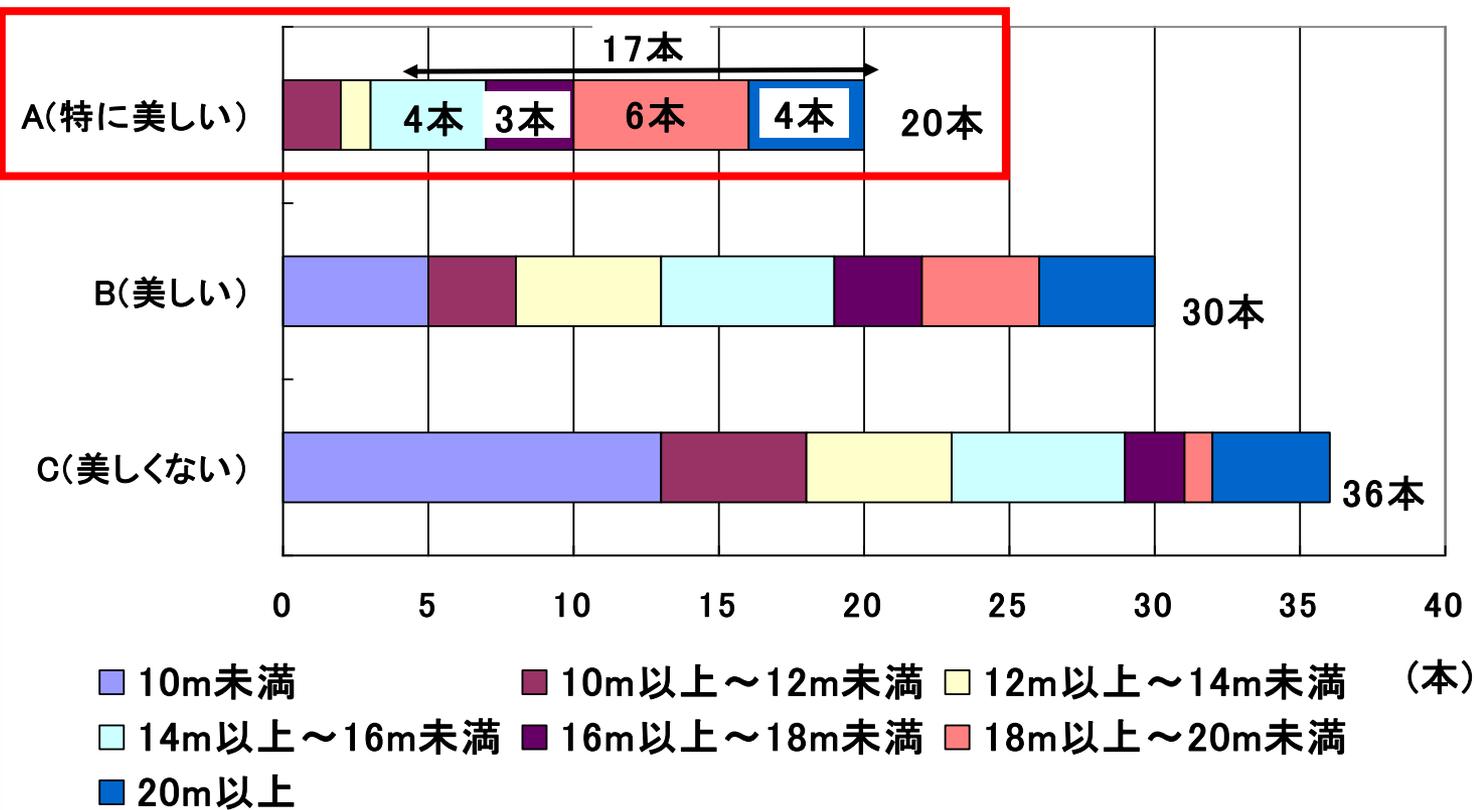
樹容特性-枝張りクロス集計結果



第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

		立地・性状特性						
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい
	最大可視箇所数	×	—	○住居系で増える	×	×	×	×
	目立ち度							以上が望ましい
	樹容特性							望ましい
	故事来歴の有無							×

樹容特性-枝張りクロス集計結果



第3章 視覚・文化特性と立地・性状特性との関係性の把握

		立地・性状特性						
		樹種	土地所有	周辺環境	樹高	幹周り	枝張り	活力度
視覚・文化特性	最大可視距離	×	—	○300m未満の樹木が住居系地域で多くなる	○最大可視距離300m以上の樹木は、樹高18m以上の樹木が優占している。	×	×	○B以上が望ましい
	最大可視箇所数	×	—	○住居系で増える	×	×	×	×
	目立ち度	×	—	○Aは住居系・工業系地域に存在し、商業系地域には存在しない	○Aは樹高18m以上が多くを占め、樹高15m未満では低くなる	×	○14m以上で高くなる	○B以上が望ましい
	樹容特性	×	○美しい樹木は神社・寺院に多い	○第1種住居地域で担保されやすい	○A、Bは18m以上の樹木に多くみられる	×	○Aは14m以上が大半を占める	○Aが望ましい
	故事来歴の有無	×	○神社・集合住宅に「A」が多く、寺院・個人邸に「B」が多い	○第1種住居と商業地域に多い	○18m以上の樹木に多い	○Aは3.5mの樹木に多く存在する。	×	×

○ 影響有り × 影響無し — 未集計
6本

樹木の景観的価値評価の試み

① 樹木性状を指標とするケース

- ・ 樹高18m以上
- ・ 枝張り14m以上
- ・ 幹周り3.5m以上
- ・ 活力度A(1.00~1.75)



これらを満たしている樹木は
景観的価値が高い。



● これら全ての指標をクリアー
している樹木を景観重要樹木と
して定義



9本が選定

樹木の景観的価値評価の試み

① 樹木性状を指標とするケース

- ・ 樹高18m以上
- ・ 枝張り14m以上
- ・ 幹周り3.5m以上
- ・ 活力度A(1.00~1.75)



これらを満たしている樹木は
景観的価値が高い。



● これら全ての指標をクリアー
している樹木を景観重要樹木と
して定義



9本が選定



香具波志神社 クスノキ



大宮神社 クスノキ

樹木の景観的価値評価の試み

① 樹木性状を指標とするケース

- ・ 樹高18m以上
- ・ 枝張り14m以上
- ・ 幹周り3.5m以上
- ・ 活力度A(1.00~1.75)



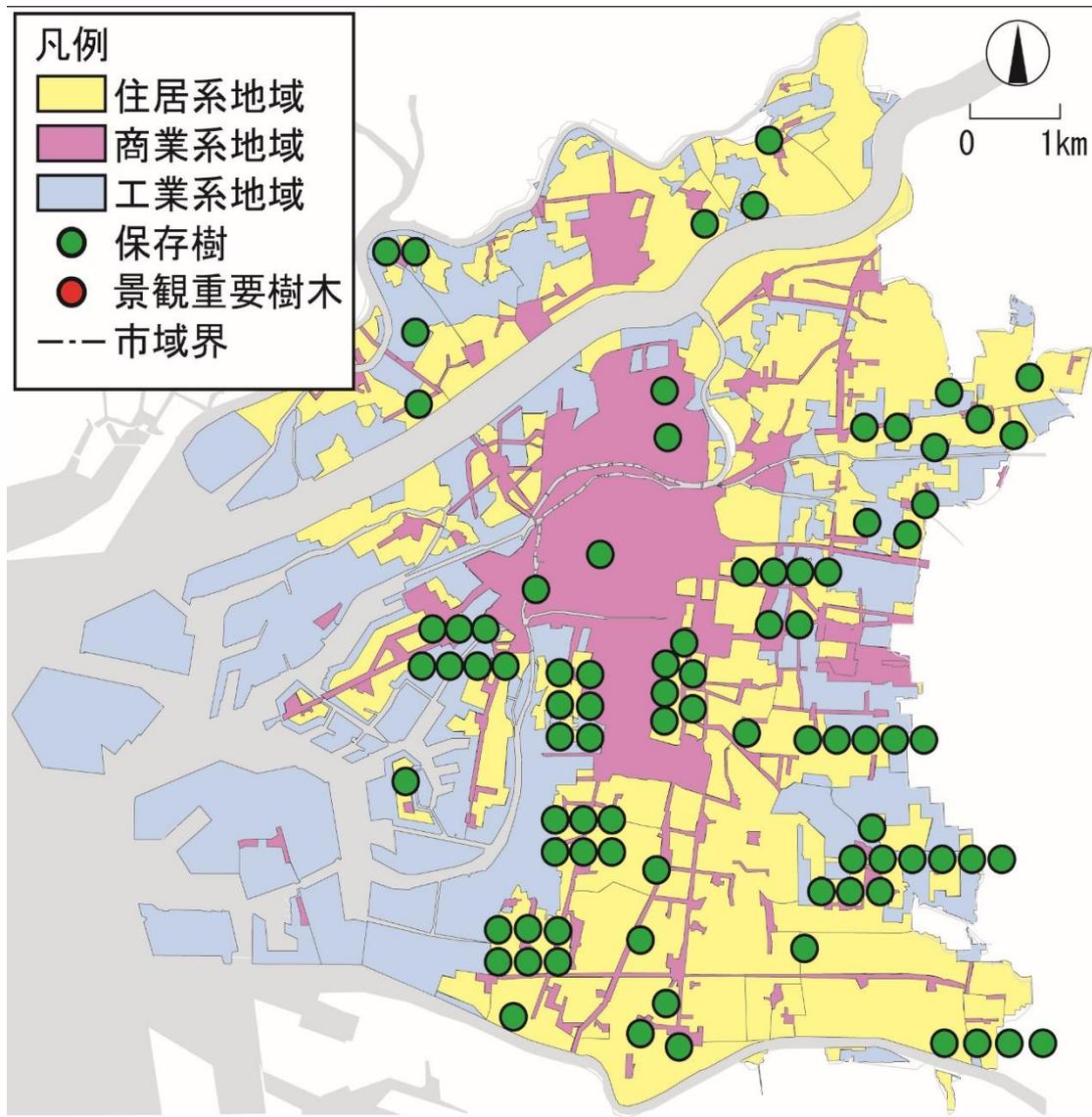
これらを満たしている樹木は
景観的価値が高い。



● これら全ての指標をクリアー
している樹木を景観重要樹木と
して定義



9本が選定



樹木の景観的価値評価の試み

① 樹木性状を指標とするケース

- ・ 樹高18m以上
- ・ 枝張り14m以上
- ・ 幹周り3.5m以上
- ・ 活力度A(1.00~1.75)



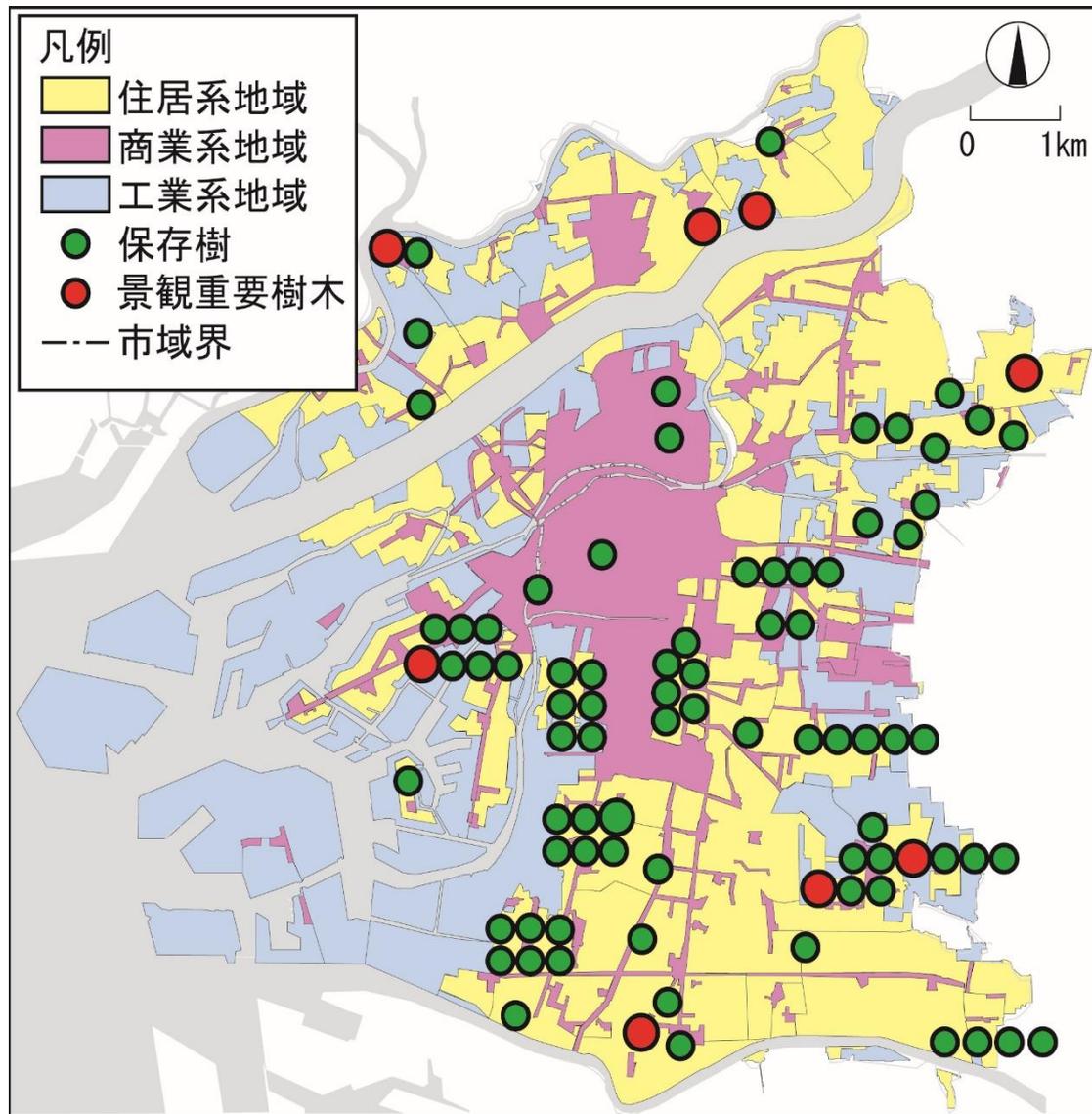
これらを満たしている樹木は
景観的価値が高い。



● これら全ての指標をクリアー
している樹木を景観重要樹木と
して定義



9本が選定



②視覚・文化特性を指標とするケース

- ・最大可視距離 400m以上
- ・最大可視箇所数 5箇所以上
- ・目立ち度 1/3以上見える
- ・樹容特性 特に美しい
- ・故事来歴の有無

地域の歴史や文化を持つ

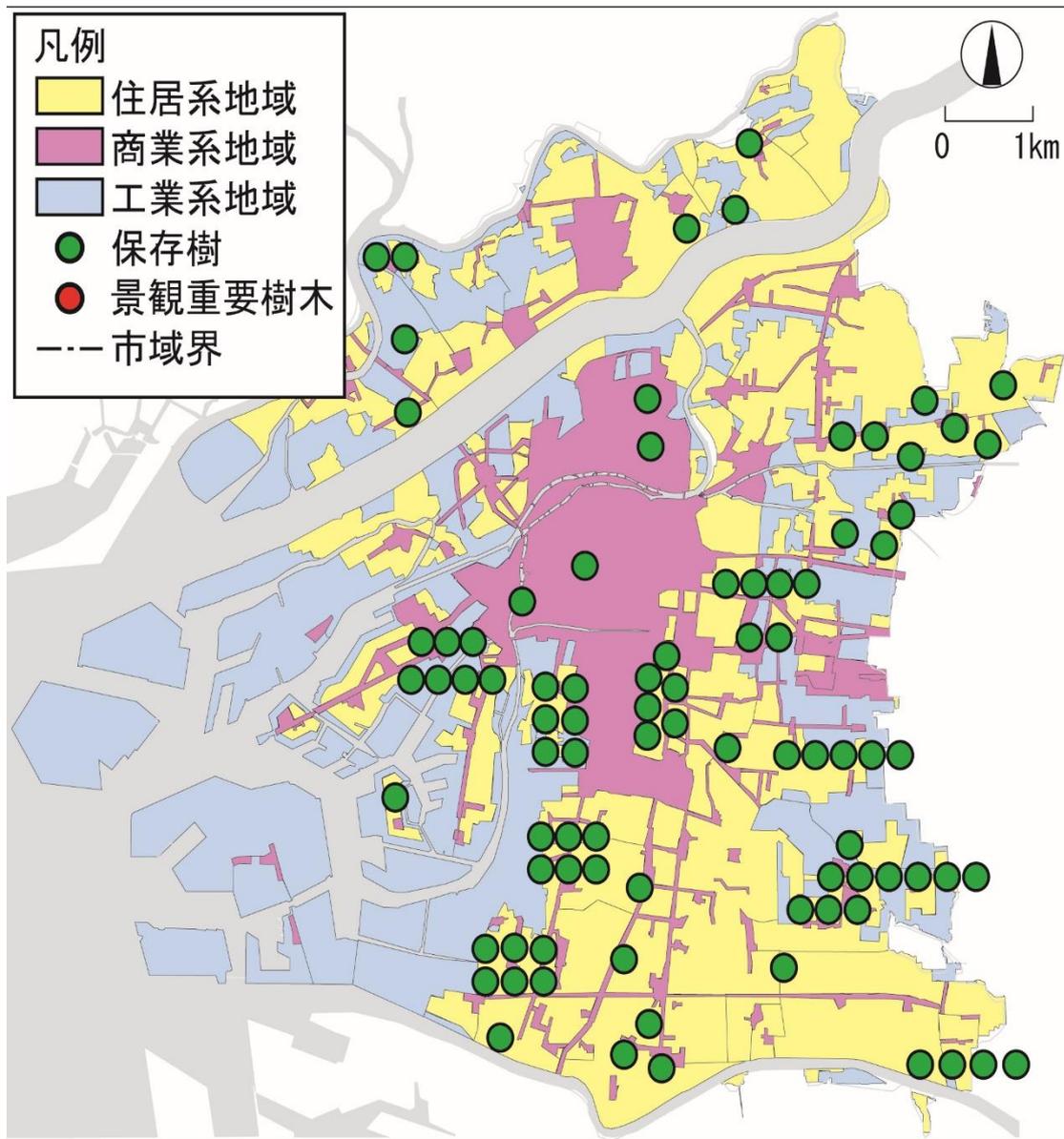


以上の5指標を満たしている
樹木は景観的価値が高い。

●これら5指標中4～3指標を
クリアーする樹木を景観重要
樹木として定義



- ・4指標で5本
- ・3指標で10本 選定



②視覚・文化特性を指標とするケース

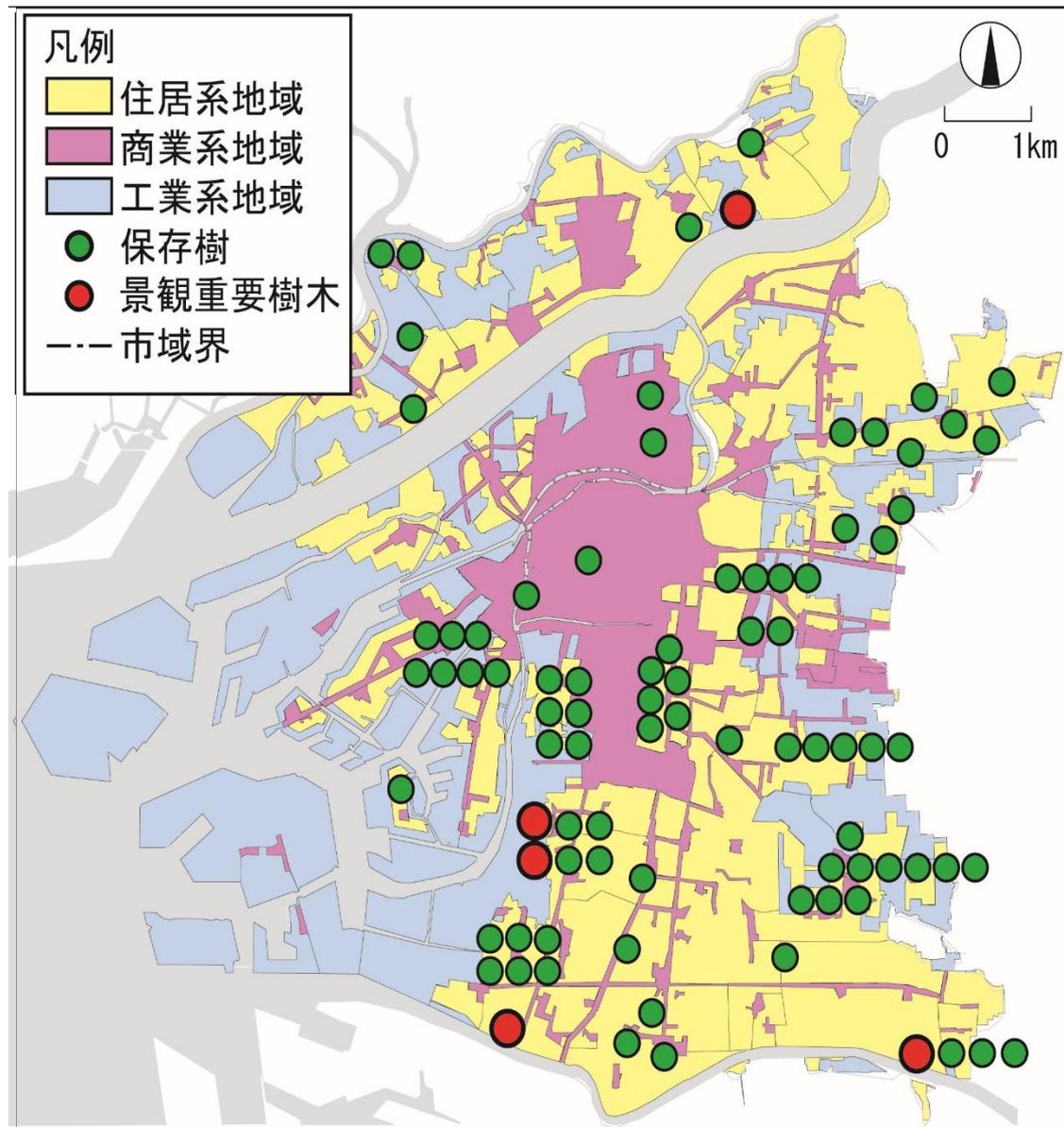
- ・最大可視距離 400m以上
 - ・最大可視箇所数 5箇所以上
 - ・目立ち度 1/3以上見える
 - ・樹容特性 特に美しい
 - ・故事来歴の有無
- 地域の歴史や文化を持つ

↓

以上の5指標を満たしている
樹木は景観的価値が高い。

●これら5指標中4～3指標を
クリアーする樹木を景観重要
樹木として定義

- ↓
- ・4指標で5本
 - ・3指標で10本 選定



②視覚・文化特性を指標とするケース

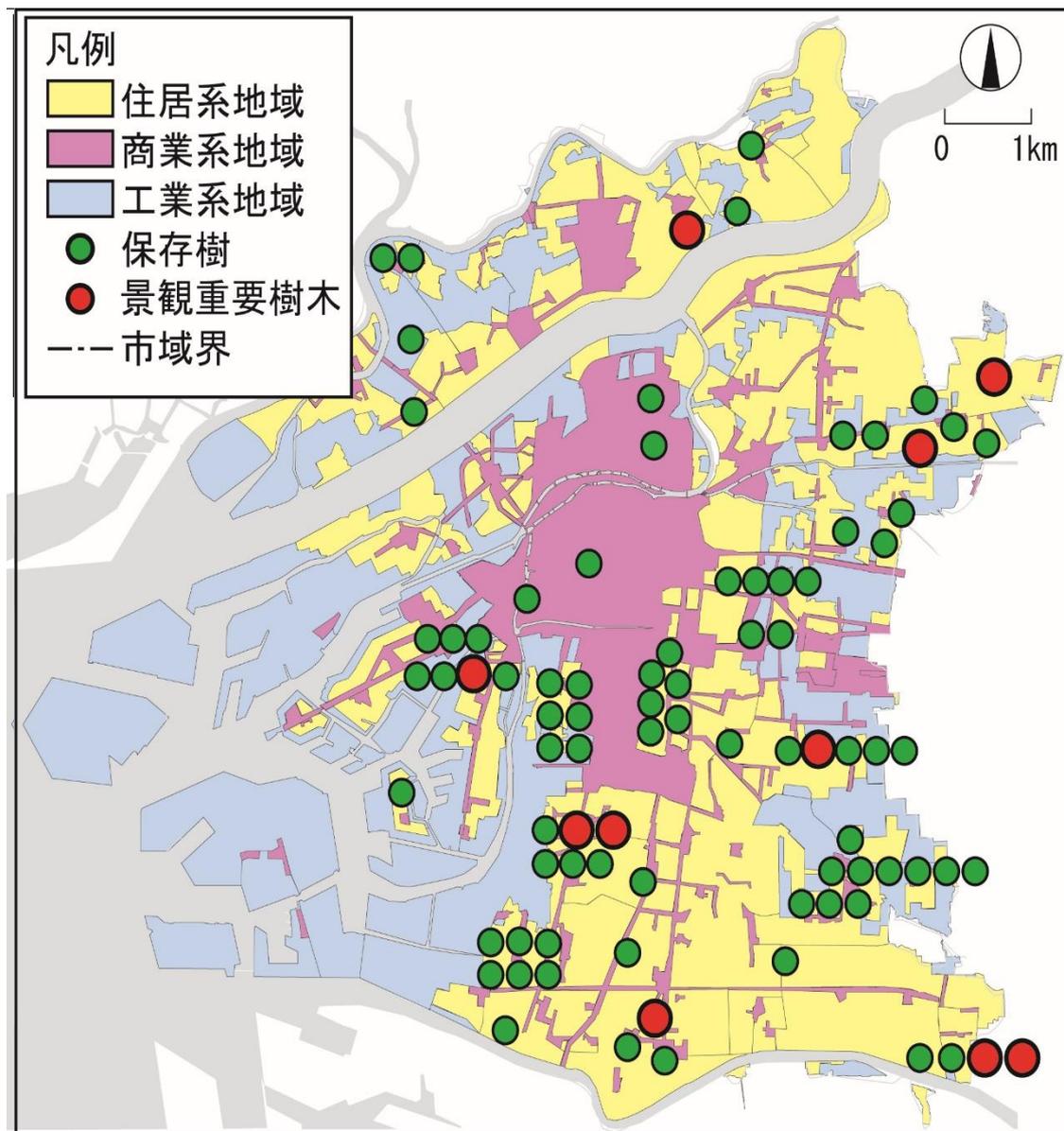
- ・最大可視距離 400m以上
 - ・最大可視箇所数 5箇所以上
 - ・目立ち度 1/3以上見える
 - ・樹容特性 特に美しい
 - ・故事来歴の有無
- 地域の歴史や文化を持つ

↓

以上の5指標を満たしている
樹木は景観的価値が高い。

●これら5指標中4～3指標を
クリアーする樹木を景観重要
樹木として定義

- ↓
- ・4指標で5本
 - ・3指標で10本 選定



③周辺環境に応じて異なった指標を用いるケース

・視覚・文化特性は周辺環境から影響を受けやすい

・住居系地域

・商業系地域

・工業系地域

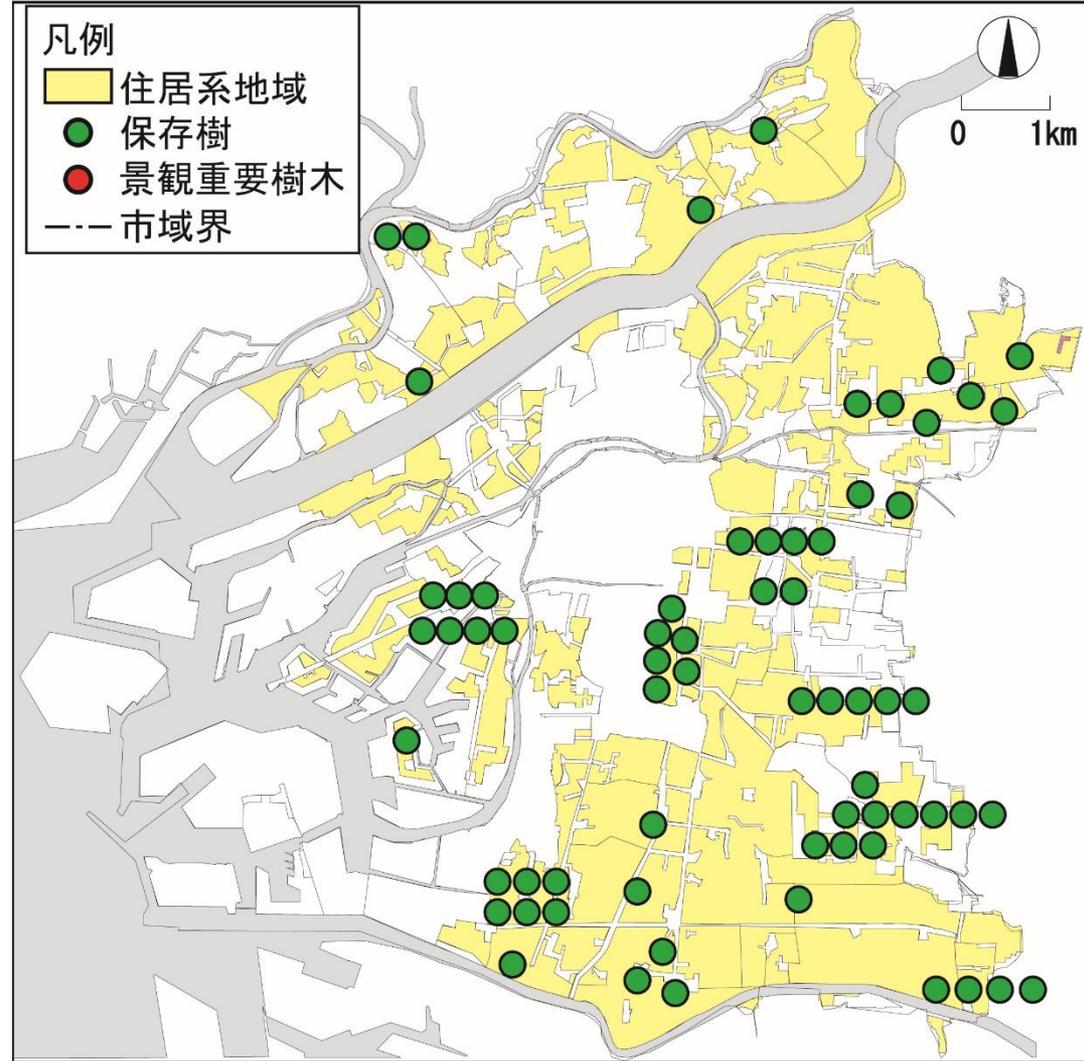
③ 周辺環境に応じて異なった指標を用いるケース

・視覚・文化特性は周辺環境から影響を受けやすい

・住居系地域

・商業系地域

・工業系地域



③周辺環境に応じて異なった指標を用いるケース

・視覚・文化特性は周辺環境から影響を受けやすい

・住居系地域

可視距離が短くなる。

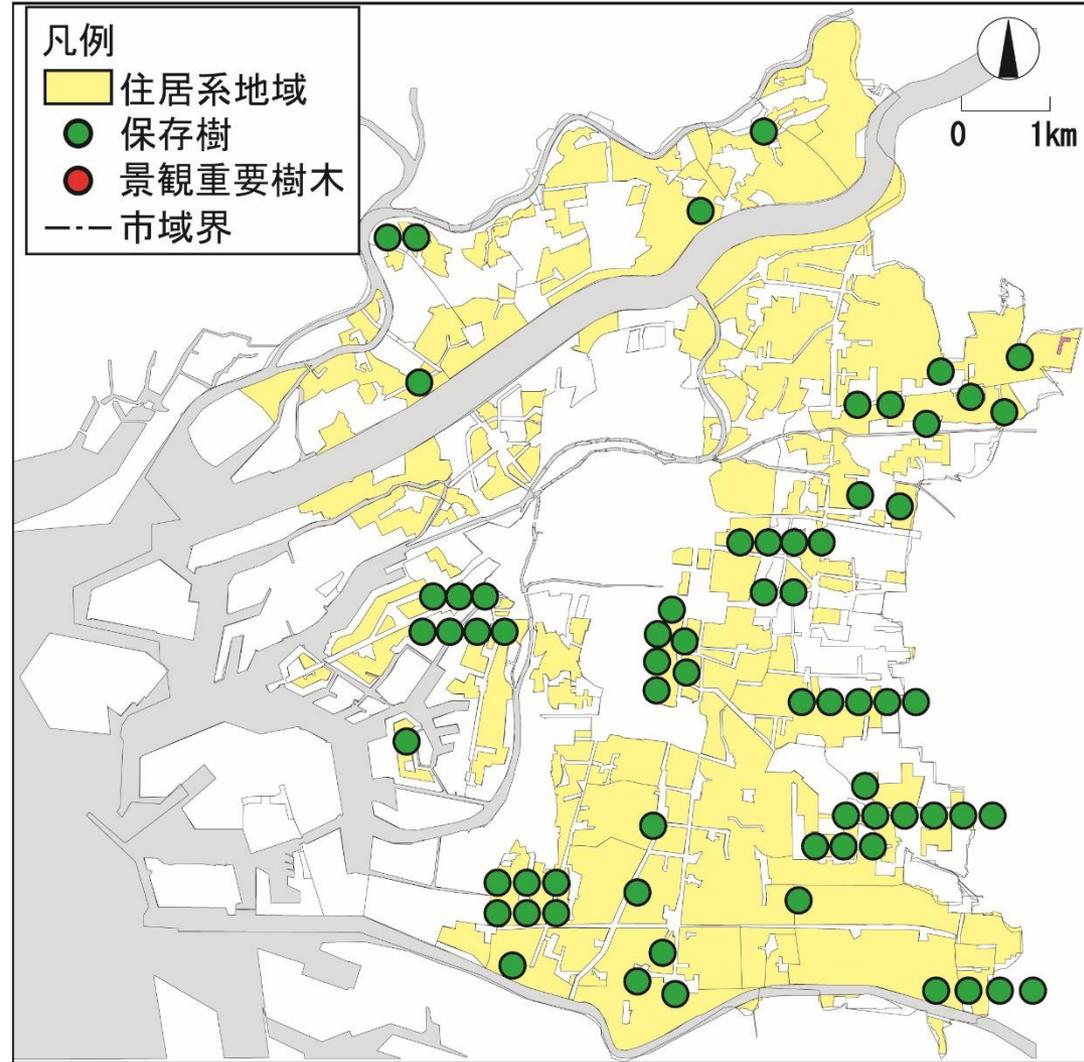


●可視距離400m以上のみを指標する

→ 8本が選定

・商業系地域

・工業系地域



③ 周辺環境に応じて異なった指標を用いるケース

・視覚・文化特性は周辺環境から影響を受けやすい

・住居系地域

可視距離が短くなる。

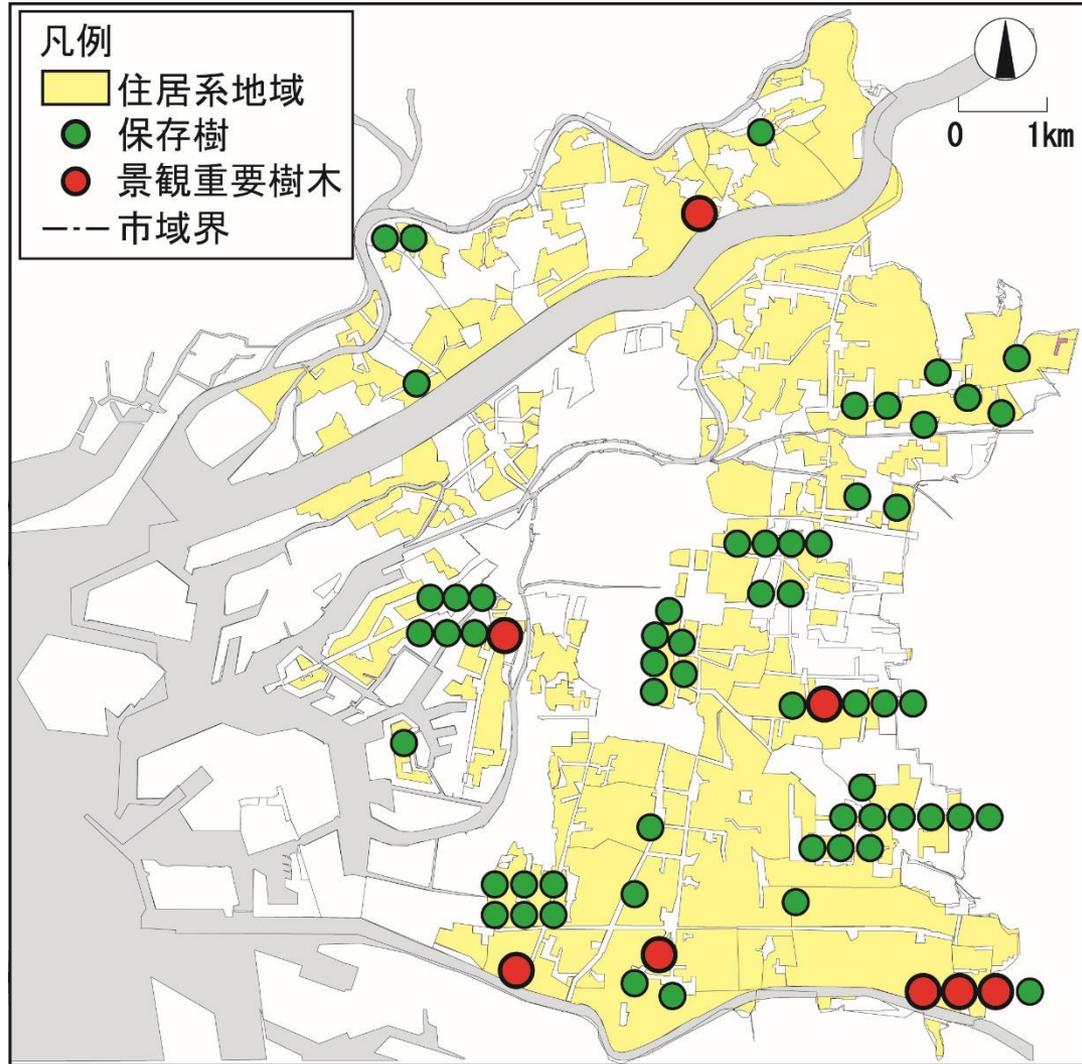


● 可視距離400m以上のみを指標する

➡ 8本が選定

・商業系地域

・工業系地域



③ 周辺環境に応じて異なった指標を用いるケース

・視覚・文化特性は周辺環境から影響を受けやすい

・住居系地域

可視距離が短くなる。



● 可視距離400m以上のみを指標する

→ 8本が選定

可視箇所数と目立ち度が高い傾向にある。

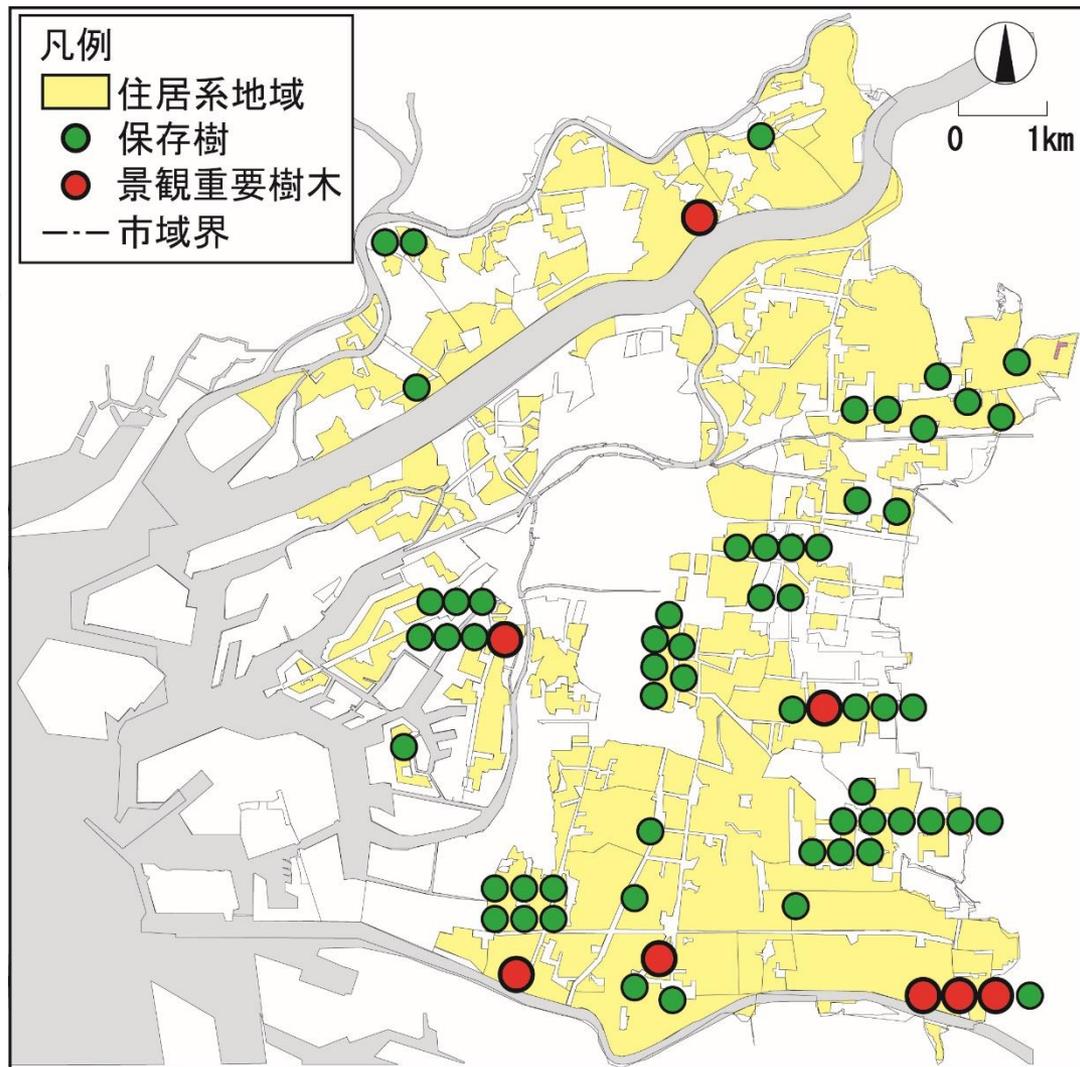


● 可視箇所数と目立ち度の2項目を同時に満たしている

→ 14本が選定

・商業系地域

・工業系地域



③周辺環境に応じて異なった指標を用いるケース

・視覚・文化特性は周辺環境から影響を受けやすい

・住居系地域

可視距離が短くなる。



●可視距離400m以上のみを指標する

→ 8本が選定

可視箇所数と目立ち度が高い傾向にある。

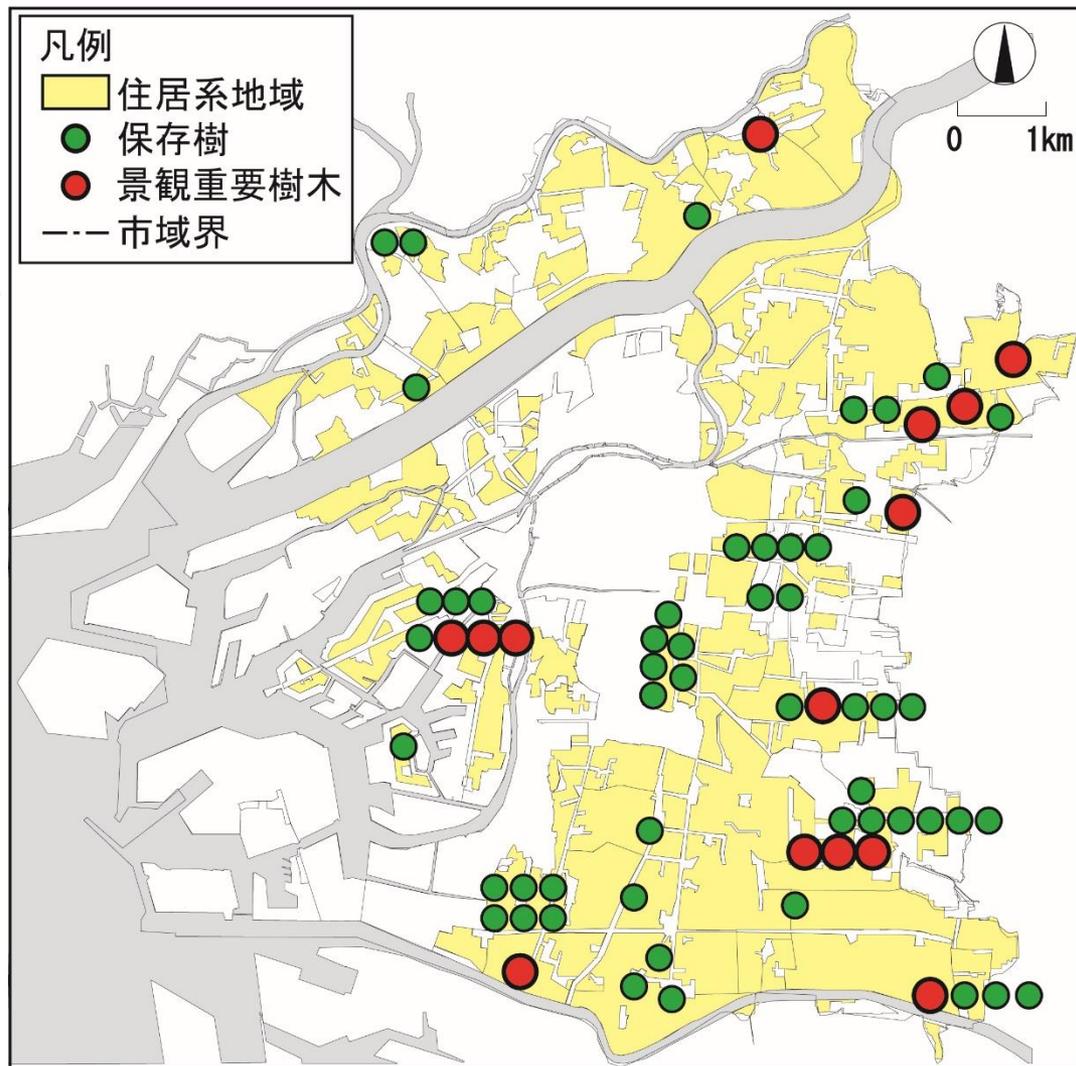


●可視箇所数と目立ち度の2項目を同時に満たしている

→ 14本が選定

・商業系地域

・工業系地域



③周辺環境に応じて異なった指標を用いるケース

・視覚・文化特性は周辺環境から影響を受けやすい

・住居系地域

可視距離が短くなる。



●可視距離400m以上のみを指標する

➡ 8本が選定

可視箇所数と目立ち度が高い傾向にある。

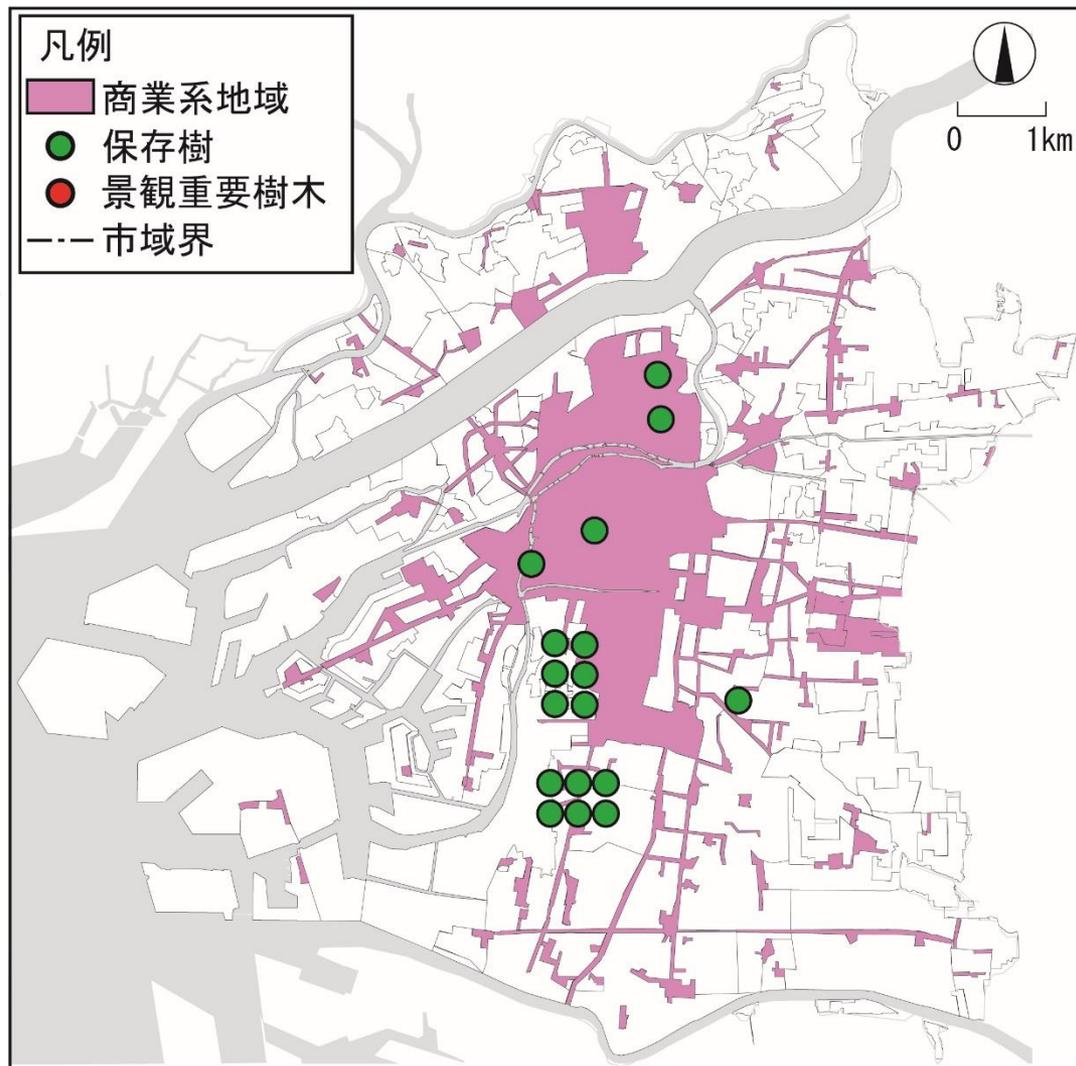


●可視箇所数と目立ち度の2項目を同時に満たしている

➡ 14本が選定

・商業系地域

・工業系地域



③周辺環境に応じて異なった指標を用いるケース

・視覚・文化特性は周辺環境から影響を受けやすい

・住居系地域

可視距離が短くなる。

●可視距離400m以上のみを指標する

→ 8本が選定

可視箇所数と目立ち度が高い傾向にある。

●可視箇所数と目立ち度の2項目を同時に満たしている

→ 14本が選定

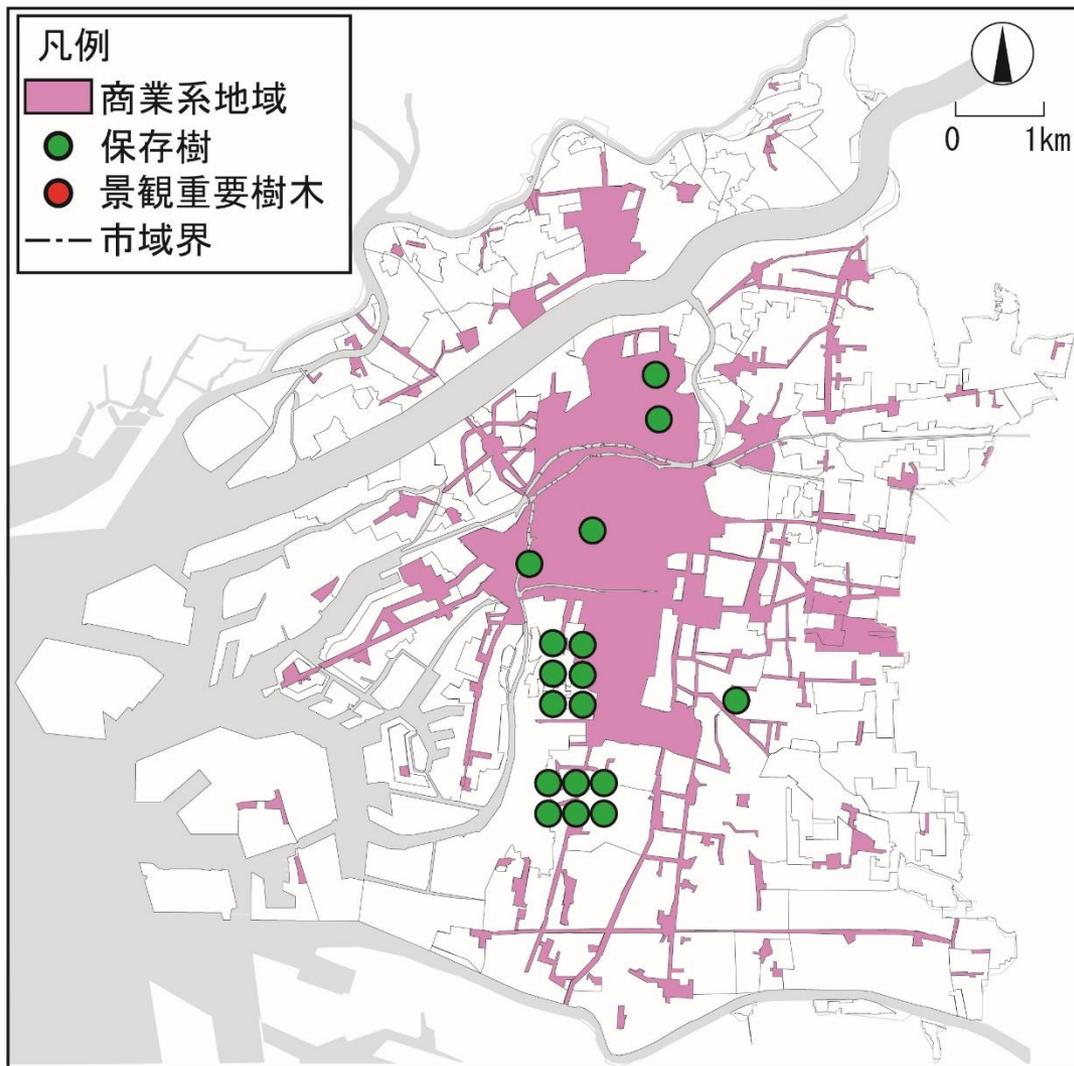
・商業系地域

商業系地域では目立ち度が低い

●視覚特性よりも文化特性を重視し、地域の歴史や文化を持つこと

→ 6本が選定

・工業系地域



③周辺環境に応じて異なった指標を用いるケース

・視覚・文化特性は周辺環境から影響を受けやすい

・住居系地域

可視距離が短くなる。

●可視距離400m以上のみを指標する

→ 8本が選定

可視箇所数と目立ち度が高い傾向にある。

●可視箇所数と目立ち度の2項目を同時に満たしている

→ 14本が選定

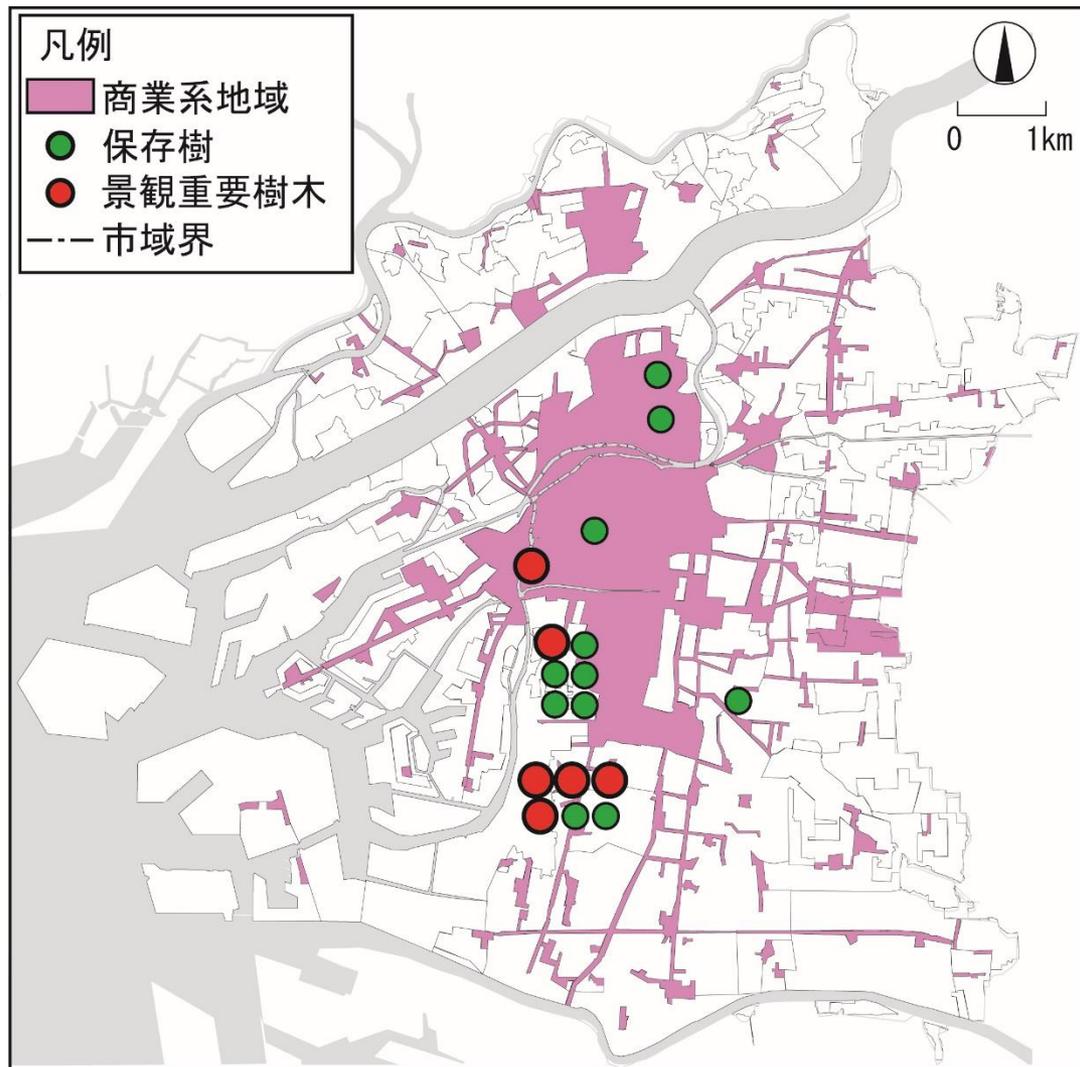
・商業系地域

商業系地域では目立ち度が低い

●視覚特性よりも文化特性を重視し、地域の歴史や文化を持つこと

→ 6本が選定

・工業系地域



③周辺環境に応じて異なった指標を用いるケース

・視覚・文化特性は周辺環境から影響を受けやすい

・住居系地域

可視距離が短くなる。

●可視距離400m以上のみを指標する

➡ 8本が選定

可視箇所数と目立ち度が高い傾向にある。

●可視箇所数と目立ち度の2項目を同時に満たしている

➡ 14本が選定

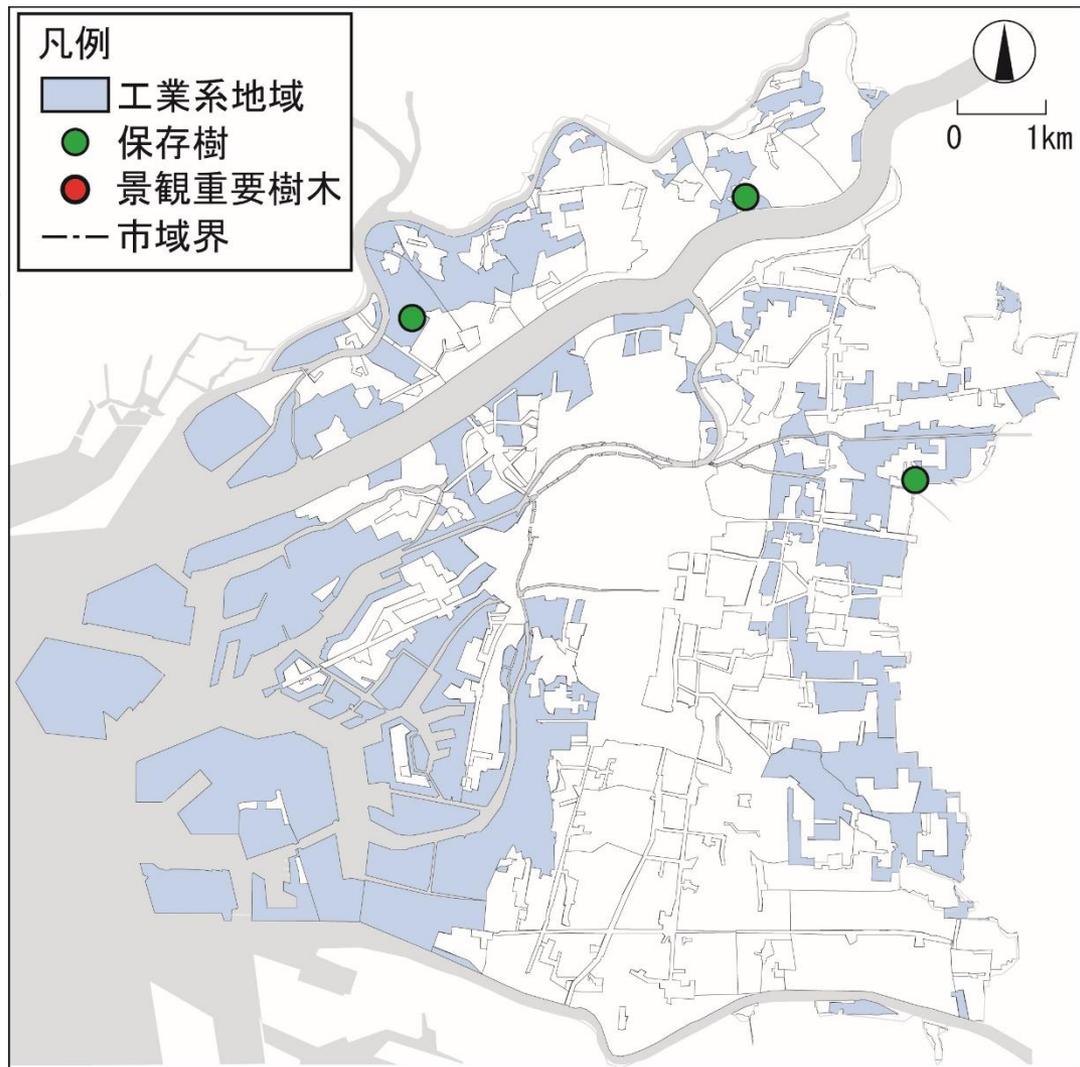
・商業系地域

商業系地域では目立ち度が低い

●視覚特性よりも文化特性を重視し、地域の歴史や文化を持つこと

➡ 6本が選定

・工業系地域



③周辺環境に応じて異なった指標を用いるケース

・視覚・文化特性は周辺環境から影響を受けやすい

・住居系地域

可視距離が短くなる。

●可視距離400m以上のみを指標する

→ 8本が選定

可視箇所数と目立ち度が高い傾向にある。

●可視箇所数と目立ち度の2項目を同時に満たしている

→ 14本が選定

・商業系地域

商業系地域では目立ち度が低い

●視覚特性よりも文化特性を重視し、地域の歴史や文化を持つこと

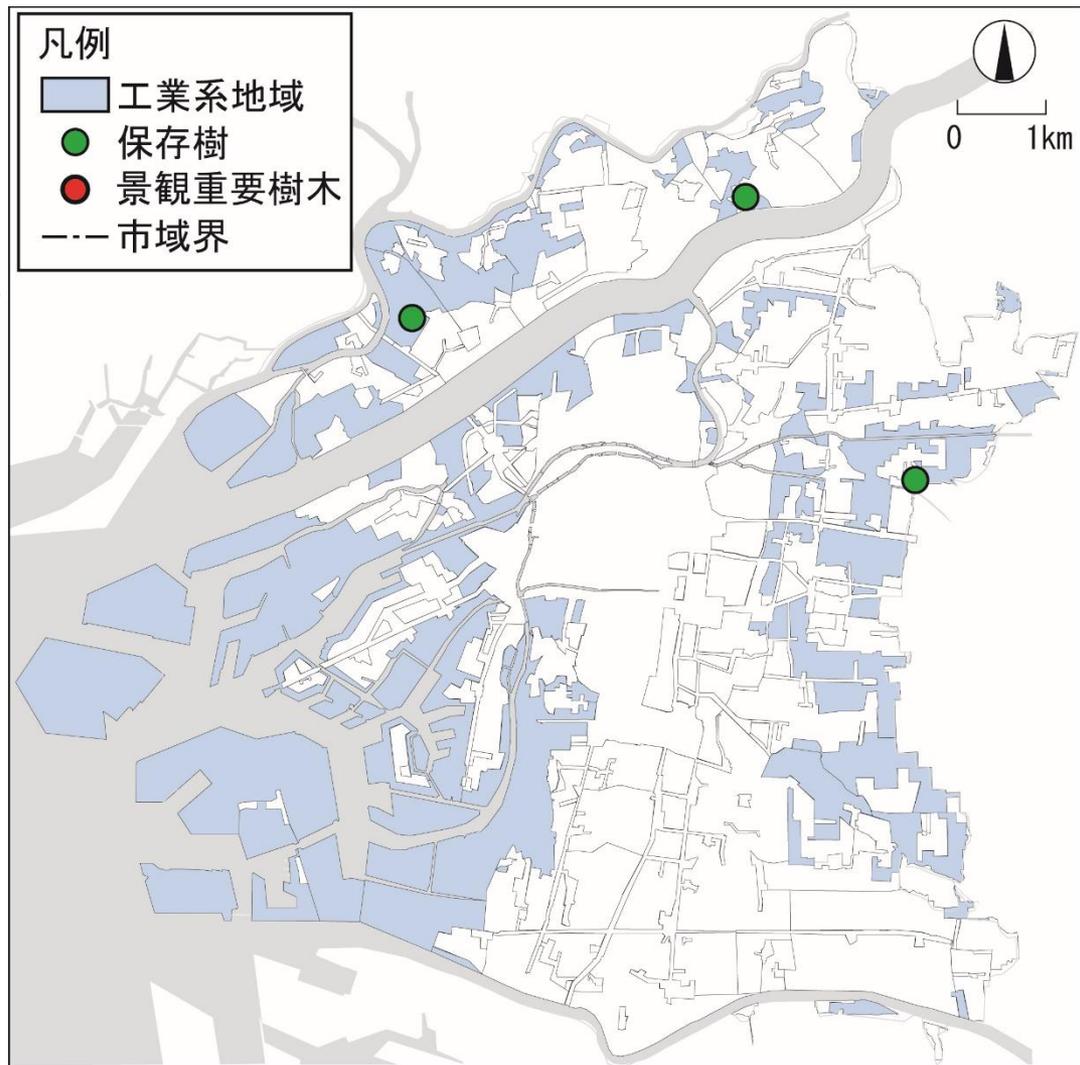
→ 6本が選定

・工業系地域

指定保存樹が3本と少ない

●視覚・文化特性の5指標のいずれかを満たしている

→ 3本全てが選定



③周辺環境に応じて異なった指標を用いるケース

・視覚・文化特性は周辺環境から影響を受けやすい

・住居系地域

可視距離が短くなる。

●可視距離400m以上のみを指標する

➡ 8本が選定

可視箇所数と目立ち度が高い傾向にある。

●可視箇所数と目立ち度の2項目を同時に満たしている

➡ 14本が選定

・商業系地域

商業系地域では目立ち度が低い

●視覚特性よりも文化特性を重視し、地域の歴史や文化を持つこと

➡ 6本が選定

・工業系地域

指定保存樹が3本と少ない

●視覚・文化特性の5指標のいずれかを満たしている

➡ 3本全てが選定

